

学生確保の見通しを記載した書類 目次

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組み状況

- ① 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - ア 定員充足の見込み
 - イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要
 - A 既設の経営系大学の動向
 - B 全国及び地域における 18 歳人口の大学進学率
 - C 本法人が運営する既設の専門学校の募集状況
 - D 第三者機関による高校生アンケート調査
 - E 第三者機関による追加の高校生アンケート調査
 - F 社会人アンケート調査
 - ウ 学生納付金の設定の考え方

- ② 学生の確保に向けた具体的な取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - ア 広報体制
 - イ 広報活動内容
 - ウ 定員充足率 0.7 倍未満の既存専門学校の学生確保に向けた取組み

(2) 人材需要の動向等社会の要請

- ① 人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・・・・・・・・ 16

- ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠・・・・ 17
 - ア 外部資料に基づく人材需要の見込み
 - イ 第三者機関によるアンケート調査
 - A 回答者の属性
 - B 企業における近年の人材充足状況について
 - C 企業における中核人材に求める知識・能力
 - D 企業における大卒新卒者を採用する際に重視する点
 - E 本学卒業生の採用意向

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組み状況

① 学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

学校法人国際ビジネス学院（以下、本法人）は、かなざわ食マネジメント専門職大学（以下、本学）を設置し、1学部1学科で構成する。なお、入学定員は40名と設定した。既設の経営系大学の動向や、全国及び地域における18歳人口の動向、高校生を対象としたアンケート等を総合的に判断して設定を行っており、定員充足には問題がないと判断した。

学 科 名	入学定員	総定員
フードサービスマネジメント学科	40名	160名

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

A 既設の経営系大学の動向

本学の設置する学部が経済学関係における経営分野であることから、北陸3県の競合する大学の経営系の学部を抽出して収容定員及び収容定員における充足率を比較した。また、全国の経営系または家政系の学部・学科を有する大学についても比較をおこなった。

【表 1-1 北陸3県の競合する大学の学部在学者一覧（平成30年度）】

都道府県	大学名	学部	学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
石川	金沢星稜	経済	経営	640	727	1.14
石川	金沢学院	経営情報	経営情報	510	545	1.07
石川	金沢工業	情報フロンティア	経営情報	240	214	0.89
石川	北陸	経済経営	マネジメント	630	744	1.18
福井	福井工業	環境情報	経営情報	320	423	1.32

【表 1-2 全国の競合する大学の学部在学者一覧（平成30年度）】

都道府県	大学名	学部	学科	収容定員	在学者数	収容定員充足率
滋賀	立命館大学	食マネジメント学部	食マネジメント学科	320	355	110.9
愛知	名古屋文理大学	健康生活学部	フードビジネス学科	280	275	98.2
大阪	梅花女子大学	食文化学部	食文化学科	240	267	111.2
東京	昭和女子大学	生活科学学部	食安全マネジメント学科	160	155	96.7

大阪	大阪成蹊大学	マネジメント学部	マネジメント学科	282	459	162.7
東京	亜細亜大学	経営学部	ホスピタリティマネジメント学科	540	570	105.5
東京	東京聖栄大学	健康栄養学部	食品学科	320	313	97.8

次に過去3か年の北陸3県の競合する大学の学部入学者数一覧を調査し、年度別の北陸における経営系の志願者数及び合格者数から入学者数に対する歩留まり率を調査した。

【表 2-1 北陸3県の競合する大学の学部3か年の入学者一覧（令和元年度入試）】

令和元年度(2019)

都道府県	大学名	学部	学科	募集定員(人)	志願者(人)	志願倍率(倍)	合格者数(人)	入学者(人)	入学定員充足率(%)	歩留まり率
石川	金沢星稜	経済	経営	170	998	5.87	420	185	108.8	44.0
石川	金沢学院	経営情報	経営情報	180	553	3.07	439	216	120.0	49.2
石川	金沢工業	情報フロンティア	経営情報	60	329	5.48	183	71	118.3	38.8
石川	北陸	経済経営	マネジメント	230	657	2.86	非公表	285	123.9	非公表
福井	福井工業	環境情報	経営情報	80	496	6.20	138	107	133.7	77.5
令和元年度計				720	3033	4.21	1180	864	120.0	49.1

【表 2-2 北陸3県の競合する大学の学部3か年の入学者一覧（平成30年度入試）】

平成30年度(2018)

都道府県	大学名	学部	学科	募集定員(人)	志願者(人)	志願倍率(倍)	合格者数(人)	入学者(人)	入学定員充足率(%)	歩留まり率
石川	金沢星稜	経済	経営	170	1046	6.15	389	172	101.1	44.2
石川	金沢学院	経営情報	経営情報	180	443	2.46	400	182	101.1	45.5
石川	金沢工業	情報フロンティア	経営情報	60	296	4.93	175	58	96.7	33.1
石川	北陸	経済経営	マネジメント	200	528	2.64	非公表	256	128.0	非公表
福井	福井工業	環境情報	経営情報	80	500	6.25	非公表	107	133.8	非公表
平成30年度計				690	2813	4.07	964	775	112.3	42.7

【表 2-3 北陸3県の競合する大学の学部3か年の入学者一覧（平成29年度入試）】

平成29年度(2017)

都道府県	大学名	学部	学科	募集定員(人)	志願者(人)	志願倍率(倍)	合格者数(人)	入学者(人)	入学定員充足率(%)	歩留まり率
石川	金沢星稜	経済	経営	170	726	4.27	420	191	112.3	45.5
石川	金沢学院	経営情報	経営情報	160	456	2.85	392	200	125.0	51.0
石川	金沢工業	情報フロンティア	経営情報	60	193	3.22	105	31	551.7	29.5
石川	北陸	経済経営	マネジメント	200	409	2.05	非公表	223	111.5	非公表
福井	福井工業	環境情報	経営情報	80	424	5.30	非公表	108	135.0	非公表
平成29年度計				670	2208	3.29	917	753	112.3	46.0

北陸3県の経営系大学の状況について、各年度の合格者数に対して実際に入学した学生数の歩留まり率は、それぞれ令和元年度49.1%、平成30年度42.7%、平成29年度46.0%となり、3か年の平均歩留まりは46.1%となる。

上記の平均歩留まり率を本学に当てはめて検証すると、合格者に対する入学者の歩留まりを46.1%の水準にするには87名の合格者が必要となると仮定される。

後述の高校生アンケートにて本学が実施した2回の進学意向調査における全回答者のうち、1回目では141名、2回目で87名の合計228名が本学への入学意欲を示す回答が得られており、228名を志願者と仮定すると学生確保の見通しについてあると考えられる。

次に全国の経営系大学の動向について調査した。日本私立学校振興・共済事業団の「平成31年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、社会科学系である経営学部の平成31年度入学者数は27,887人であり、定員充足率は103.7%となっている【資料1】。

さらに全国の経営系または家政系の学部・学科を有する大学について、合格者のうち入学者における歩留まり率を調査した。

【表3-1 全国の経営系または家政系大学3か年の募集状況（令和元年度）】

都道府県	大学名	学部	学科	募集定員(人)	志願者(人)	志願倍率(倍)	合格者数(人)	入学者(人)	入学定員充足率(%)	歩留まり率
滋賀	立命館大学	食マネジメント学部	食マネジメント学科	320	3845	12.02	704	250	78.1	35.5
愛知	名古屋文理大学	健康生活学部	フードビジネス学科	70	123	1.76	113	72	102.9	63.7
大阪	梅花女子大学	食文化学部	食文化学科	60	183	3.05	137	59	98.3	43.1
東京	昭和女子大学	生活科学部	食安全マネジメント学科	80	633	7.91	202	86	107.5	42.6
大阪	大阪成蹊大学	マネジメント学部	マネジメント学科	70	466	6.66	123	85	121.4	69.1
東京	亜細亜大学	経営学部	ホスピタリティマネジメント学科	150	1130	7.53	282	158	105.3	56.0
東京	東京聖栄大学	健康栄養学部	食品学科	80	125	1.56	122	67	83.8	54.9
			令和元年度計	830	6505	7.84	1683	777	0.94	46.1

【表3-2 全国の経営系または家政系大学3か年の募集状況（平成30年度年度）】

都道府県	大学名	学部	学科	募集定員(人)	志願者(人)	志願倍率(倍)	合格者数(人)	入学者(人)	入学定員充足率(%)	歩留まり率
滋賀	立命館大学	食マネジメント学部	食マネジメント学科	320	3461	10.82	920	355	110.9	38.6
愛知	名古屋文理大学	健康生活学部	フードビジネス学科	70	105	1.50	92	62	88.6	67.4
大阪	梅花女子大学	食文化学部	食文化学科	60	226	3.77	145	69	115.0	47.6
東京	昭和女子大学	生活科学部	食安全マネジメント学科	80	446	5.58	162	82	102.5	50.6
大阪	大阪成蹊大学	マネジメント学部	マネジメント学科	70	330	4.71	149	86	122.9	57.7
東京	亜細亜大学	経営学部	ホスピタリティマネジメント学科	150	1044	6.96	275	156	104.0	56.7
東京	東京聖栄大学	健康栄養学部	食品学科	80	154	1.93	137	87	108.8	63.5
			平成30年度計	830	5766	6.95	1880	897	1.08	47.7

【表 3-3 全国の経営系または家政系大学 3 か年の募集状況（平成 29 年度年度）】

都道府県	大学名	学部	学科	募集定員(人)	志願者(人)	志願倍率(倍)	合格者数(人)	入学者(人)	入学定員充足率(%)	歩留まり率
滋賀	立命館大学	食マネジメント学部	食マネジメント学科	—	—	—	—	—	—	—
愛知	名古屋文理大学	健康生活学部	フードビジネス学科	70	101	1.44	90	71	101.4	78.9
大阪	梅花女子大学	食文化学部	食文化学科	60	193	3.22	160	68	113.3	42.5
東京	昭和女子大学	生活科学部	食安全マネジメント学科	80	347	4.34	107	75	93.8	70.1
大阪	大阪成蹊大学	マネジメント学部	マネジメント学科	90	289	3.21	132	93	103.3	70.5
東京	亜細亜大学	経営学部	ホスピタリティマネジメント学科	150	1075	7.17	278	158	105.3	56.8
東京	東京聖栄大学	健康栄養学部	食品学科	80	117	1.46	116	77	96.3	66.4
平成29年度計				530	2122	4.00	883	542	1.02	61.3

全国の食・経営系大学の状況について、各年度の合格者数に対して実際に入学した学生数の歩留まり率は、それぞれ令和元年度 46.1%、平成 30 年度 47.7%、平成 29 年度 61.3%となり、3 か年の平均歩留まりは 49.8%となる。

上記の平均歩留まり率を本学に当てはめて検証すると、合格者に対する入学者の歩留まりを 46.1%の水準にするには 81 名の合格者が必要となると仮定される。

先に述べた北陸 3 県との比較と同様に考えると こちらにも回答者数に見合った進学希望者である強い 1 つの根拠になると考える。

次に専門職大学の合格者のうち入学者における歩留まり率からみる検証を行った。令和元年度に新設された専門職大学は 3 校あり、それぞれが公表している情報は以下のとおりである。

【表 4 専門職大学の募集状況（令和元年度）】

都道府県	大学名	学部	学科	募集定員(人)	志願者(人)	志願倍率(倍)	合格者数(人)	入学者(人)	入学定員充足率(%)	歩留まり率
高知	高知リハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	150	152	1.01	—	132	0.88	86.8
東京	ヤマザキ動物看護専門職短期大学	—	動物トータルケア学科	80	66	0.83	64	61	0.76	95.3
東京	国際ファッション専門職大学	国際ファッション学部	4学科合計	194	—	—	—	204	1.05	—

北陸及び全校の同系大学の歩留まり比較と同じ方式で統計を取るには公開されている情報からは不足する部分があるが、ヤマザキ動物看護専門職短期大学については、入学者数は募集定員を割っているものの、合格者数に対する入学者の歩留まり率は 95.3%と非常に高い結果となっている。また、高知リハビリテーション専門職大学は、合格者数は公開されていないため、志願者から入学者の歩留まり率を算出しても 86.8%と高い結果となった。

以上のことから、専門職大学について事例は少ないながらも志願者から入学につながる歩留まりは既存の4年制大学に比べて非常に高いことがいえる。これは、専門職大学の特色でもある「特定の産業で活躍することが明確であること」で、志願者が各専門職大学において自身の具体的なキャリアパスが想像しやすいことから、志願する時点で入学への高い意欲を持っていることが考えられる。このことから、本学においても高い歩留まりになることが期待されるため、回答者数に見合った進学希望者である1つの根拠になると考える。

次に北陸3県の高校2年生の在学者数から見る検証を行った。北陸3県の令和元年度の高校2年生の在学者数は、「学校基本統計速報」によると以下の通りであり、本学が高校2年生を対象に実施した進学意向調査と比較した。石川県の高校2年生の在学者数は10,208名、富山県は9,024名、福井県は7,268名の合計26,500名である。【資料2】対して意向調査の回答者数は北陸3県外の143名を除き5,358名（在学者数の20.4%）である。②及び③で検証したクロス集計から84名が合格すれば本学に入学する意思が高いという進学意向調査からの結果を踏まえると、本学への入学への意向を持つ潜在ニーズが大いにあると考えるため、回答者数に見合った進学希望者である1つの根拠になると考える。

以上のことから、本学のフードサービスマネジメント学部の入学定員40名を設置するが、北陸にある4年制大学の経営系の学部の入学者定員充足率及び全国の大学の経営学部における入学者定員充足率を考慮し、学生確保については問題のない定員設定としている。

B 全国及び地域における18歳人口の大学進学率

全国の18歳人口は、1992年の205万人をピークに減少している状況である【資料3】。全国における18歳人口予測（2018年から2030年）では、2018年の1,179,808人から2030年の1,048,163人であり、2018年から2030年にかけて11.2%減少する見込みである【資料4】。また、北陸における18歳人口予測（2018年から2030年）では、2018年の29,216人から2030年の24,530人であり、減少率は16%と全国に比べても減少率が高い。北陸における県別の減少率は、石川県は12%減少、福井県は12.7%減少、富山県は21.5%減少となっており【資料5】、学生確保に向けた取り組みはより重要なものとなる。一方、大学進学率については2008年の全国平均46.0%から2017年には49.6%と3.6ポイント上昇しており、北陸でも2008年の45.1%から46.9%と1.8ポイント上昇している【資料6】。このことから、全国的な18歳人口は減少しており、北陸も全国に比べ更に減少率が高い結果となっているが、相対的に大学進学率の上昇を合わせると減少数は軽微なものであるため、今後大学に進学する学生確保の取り組みを堅実に行う

ことで、18歳人口の減少に対応していけると考えている。

次に地元残留率の推移では2009年の全国平均42.8%から2018年には44.2%と1.4ポイント上昇し、北陸では2009年の28.7%から2018年には33.5%と全国平均を上回る4.8ポイント上昇となっている【資料7】。北陸における大学進学者における県別の地元残留率(2018年)は、石川県は46.9%、福井県は32.4%、富山県は17.9%となっており、特に石川県は全国でも10位と高い残留率となっている【資料8】。このことから、北陸3県の中でも本学が設置を検討している石川県の地元残留率は全国的にも高い数値となっており、学生確保のメインとなるターゲットは石川県を対象としている。

以上をふまえ、本学では北陸で唯一の専門職大学であること。入学定員40名の少人数教育であること、特色ある教育課程の周知、出口であるフードサービス企業からの卒業生への期待、専門職大学の高校への周知活動などの活動を広く行うことで本学としては18歳人口の減少に対応していく所存である。

C 本法人が運営する既設の専門学校の募集状況

本法人では、既設の専門学校を4校5学科運営している。国際ペット専門学校福井ペット総合学科、国際ペット専門学校金沢ペット総合学科・イオンペット社員養成学科、金沢医療事務専門学校医療事務総合学科、国際サイクル専門学校イオンバイク社員養成学科である。また、令和2年度より姉妹法人のスーパースイーツ調理専門学校を本法人に移行し、校名を国際調理専門学校に変更する予定である。各校の収容定員及び入学定員における充足率は以下の通りである。

【表5 令和元年10月1日現在、既設の専門学校定員充足率】

学校名	学科名	収容定員	収容定員充足率
国際ペット専門学校福井	ペット総合学科	80名	0.82
国際ペット専門学校金沢	ペット総合学科	160名	0.78
	イオンペット社員養成学科	60名	0.61
金沢医療事務専門学校	医療事務総合学科	80名	0.56
国際サイクル専門学校	イオンバイク社員養成学科	80名	0.32
国際調理専門学校 ※令和2年から校名変更。 現スーパースイーツ調理専門学校	高度調理師学科	80名	0.42

【表 6-1 国際ペット専門学校福井 ペット総合学科 5 か年の入学者数】

年 度	入学定員	入学者数	入学定員充足率
令和元年度	40	36	0.90
平成 30 年度	40	30	0.75
平成 29 年度	40	35	0.87
平成 28 年度	40	31	0.77
平成 27 年度	40	38	0.95

【表 6-2 国際ペット専門学校金沢 ペット総合学科 5 か年の入学者数】

年 度	入学定員	入学者数	入学定員充足率
令和元年度	80	60	0.75
平成 30 年度	80	66	0.82
平成 29 年度	80	63	0.78
平成 28 年度	120	77	0.64
平成 27 年度	120	81	0.67

【表 6-3 国際ペット専門学校金沢 イオンペット社員養成学科 5 か年の入学者数】

年 度	入学定員	入学者数	入学定員充足率
令和元年度	30	15	0.50
平成 30 年度	30	22	0.73
平成 29 年度	40	24	0.60
平成 28 年度	40	10	0.25
平成 27 年度	40	16	0.40

【表 6-4 金沢医療事務専門学校 医療事務総合学科 5 か年の入学者数】

年 度	入学定員	入学者数	入学定員充足率
令和元年度	40	20	0.50
平成 30 年度	40	25	0.62
平成 29 年度	40	22	0.55
平成 28 年度	40	26	0.65
平成 27 年度	40	18	0.45

【表 6-5 国際サイクル専門学校 イオンバイク社員養成学科 5 か年の入学者数】

年 度	入学定員	入学者数	入学定員充足率
令和元年度	40	16	0.40

平成 30 年度	40	8	0.20
平成 29 年度	40	18	0.45
平成 28 年度	40	16	0.40
平成 27 年度	40	23	0.57

【表 6-6 国際調理専門学校（現、スーパースイーツ調理専門学校
高度調理師学科 5 か年の入学者数】

年 度	入学定員	入学者数	入学定員充足率
令和元年度	40	22	0.55
平成 30 年度	40	12	0.30
平成 29 年度	40	26	0.65
平成 28 年度	40	9	0.22
平成 27 年度※	—	—	—

※平成 28 年度から開校

既設の専門学校のうち、国際ペット専門学校福井ペット総合学科の直近 5 か年の入学定員における充足率は、令和元年度まで 0.7 倍を超えており、一定の充足率で推移している。国際ペット専門学校金沢ペット総合学科については、平成 29 年に入学定員を 120 名から 80 名に変更後は 0.7 倍を超えており、国際ペット専門学校福井と合わせて一定の倍率で推移している。

以上の 2 学科については 0.7 倍を上回っているが、1.0 倍を下回る原因として、国際ペット専門学校金沢ペット総合学科では、志望する入学者が平成 24 年度をピークに減少しており、併せて平成 24 年度から犬の飼育頭数も減少していることが挙げられる。犬の飼育頭数は、平成 24 年度の 971 万頭から、平成 28 年度には 890 万頭に減少しており、動物系専門学校の在籍者は多くの学生が主に犬や猫を飼育している傾向からも、志願者が減少している一因になると考えている。平成 29 年度にその状況を踏まえ定員を減らしたが、今後についても定員の見直しを含めて更に充足率を向上できるように一層の募集活動を行う。

国際ペット専門学校福井ペット総合学科については、平成 22 年からの入学定員における充足率については全て 0.7 倍を超えて推移している。また、福井県にある動物系専門学校は本校含めて 2 校あるが、令和元年度から残る 1 校が募集停止となったため、動物系は福井県では本校のみとなる。このことから、令和 2 年度以降については、1.0 倍を超える入学者が期待できるため、今後も安定した充足率の確保が見込まれる。

次に令和元年度の収容定員充足率 0.7 倍未満の学科については、国際ペット専門学校金沢イオンペット社員養成学科の 0.61 倍、金沢医療事務専門学校医療事務総合学科の 0.56 倍、国際サイクル専門学校イオンバイク社員養成学科の 0.32 倍、令和 2 年 4

月より校名変更を行う現校名スーパースイーツ調理専門学校の 0.42 倍の 4 校 4 学科となる。

上記 4 学科の定員が 0.7 倍に達しない原因として、まず国際ペット専門学校金沢イオンペット社員養成学科については、直近 5 か年の入学定員における充足率についていずれの年度も厳しい充足率になっている。まず国内でのペット業界有数の企業であるイオンペット株式会社に就職するための学科として平成 25 年度に立ち上げたが、未だ本学科の知名度向上が図られていない事があげられる。また、本学科に入学すると就職先はイオンペット株式会社への採用において有利になる点があり、入学前からの募集段階において広報活動によりしっかりと周知できていないことによる。つまり、業界で唯一産学連携を組み雇用が保証されている魅力を伝えきれていないことが原因として考えられる。あわせて平成 30 年度の募集より定員を 40 名から 30 名に変更することで充足率向上への対応としている。

次に金沢医療事務専門学校医療事務総合学科については、直近 5 か年でいずれも 0.7 倍を下回っている。原因として大学及び短期大学、専門学校などの競合校がいることが挙げられる。県内の大学では、金城大学社会福祉学部社会福祉学科医療情報コースと金城大学短期大学部ビジネス実務学科メディカル秘書コースの 2 校、同種の専門学校は本校のほかに 1 校あり、各校に進学者が分散していることが一因として考えられる。大学及び短期大学の入学定員に対する充足率は、コース制がとられているため詳細は把握できないが、公表されている医療事務に係る資格取得の人数を見ると短期大学部では 33 名の取得者が確認でき、入学者は一定数いると推測される。

また、本法人の専門学校についても同種の他の 1 校の入学者を合わせると毎年 40 名を超えていることから、一定の母数があることを踏まえ、今後募集活動において医療系に就職したい希望者に 1 人 1 人丁寧に本校の魅力を伝えることにより定員充足の機会は今後十分にあると考える。

次に国際サイクル専門学校イオンバイク社員養成学科については、直近 5 か年での入学定員における充足率はいずれも 0.7 倍を下回っている。原因としては、国際ペット専門学校金沢イオンペット社員養成学科同様、高校生に対して産学連携により特定の企業へ就職する有利さがアピール不足であること、自転車関連の専門学校は全国で本校と合わせて 2 校しかないため十分理解されておらず、進学と同時に就職先が確実にするという本学のメリットが感じられていないことが挙げられる。定員を 40 名と設定していることについては、今後の募集状況を鑑みて定員を減ずるかを検討する。

次にスーパースイーツ調理専門学校高度調理学科については、直近 4 か年での入学定員における充足率はいずれも 0.7 倍を下回っている。原因としては、姉妹法人で運営している製菓の専門学校である「スーパースイーツ製菓専門学校」の知名度が高いこともあり、校名が類似しているスーパースイーツ調理専門学校の校名との区別をする内容周知ができていなかったことが挙げられる。また、学校長は平成 30 年度まで

は製菓業界で著名な「辻口 博啓」が就任しており、製菓系の希望者には知名度があったが、調理系の希望者の関心は薄く受験者増加にはつながらなかった。その差別化を図るために、令和元年度から学校長を調理業界で著名な「道場 六三郎」が就任し、令和 2 年度より校名を「スーパースイーツ調理専門学校」から「国際調理専門学校」へ変更し、募集活動に努める計画をしている。また、既設の 2 年制学科に加え、1 年制学科の新設も予定しており、定員については 2 年制を 40 名、1 年制を 40 名として、募集活動にあたる。

既設の専門学校における定員は、施設設備や教員組織など教育の質が担保できることを前提に設定しているが、専門学校として経営を維持できる入学者数は確保していることから、これまで定員を充足することにこだわらず運営してきた。今後は安定した経営の維持に努めながら、定員の充足に向けて学生の確保に取り組むとともに、実態や情勢に応じて定員についても柔軟に対応してゆく。

D 第三者機関による高校生アンケート調査

本学では、フードサービスマネジメント学部フードサービスマネジメント学科への受験・入学希望者数を把握するために、第三者機関である「一般財団法人 日本開発構想研究所」を介して、以下の内容で高校生アンケート調査を実施した【資料 9】。

● 高校生アンケート

「かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査」概要

調査時期：令和元年 6 月～9 月

調査対象：令和 3 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い高校 2 年生（令和 3 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。学生確保の基盤とする石川県を含む北陸 3 県をはじめ、志願者・入学者が期待できる近隣県の高校にアンケート実施を依頼し、46 校にご協力頂いた。

調査方法：アンケート実施の了承が得られた高校に高校生アンケート用紙（必要部数）を送付。各校の教職員から調査対象者（高校 2 年生）にアンケート用紙を配布の上、10 分程度の回答時間を設け、その場で回収頂いた。

回収件数：有効回答 5,501 件

本アンケート調査では、かなざわ食マネジメント専門職大学フードサービスマネジメント学部フードサービスマネジメント学科に「進学を希望する」と回答した者は 63 名、「とりあえず受験してみたい」と回答した者は 78 名となり、合計 141 名（入学定員に対して 3.5 倍）が本学への入学意欲を示す回答が得られたことから、定員 40 名に対しての学生確保の見通しについてあると考えられる。また、アンケートでは専門職大学への関心についての項目で、「たいへん関心がある」と回答した者が 575 名（全体

の13.3%)、「少し関心がある」と回答したものが2079名(全体の48.2%)となり、合算すると2654名(全体の61.5%)が専門職大学への関心を持っていることから、専門職大学制度への理解を本学及び関係機関が周知活動を行うことで、更に入学希望者増を見込めると想定する。

更にクロス集計を行い分析すると、「進学を希望する」と回答した63人のうち、高校卒業後の希望進路で「大学進学・専門職大学進学」と回答したのは48人であり、この48人のうち、専門職大学への関心で「たいへん関心がある」と回答したのは33人、「少し関心がある」と回答したのは10人である。

かなざわ食マネジメント専門職大学に「進学を希望する」と回答した回答者は63人いるが、そのうち、高校卒業後の進路として大学又は専門職大学を希望し、かつ専門職大学に関心がある又は少し関心があると回答した43人については、進学希望者として特に期待できると考えられる。

また、高校卒業後の希望進路で「短期大学進学・専門職短期大学進学」と回答しているが、専門職大学への関心では「たいへん関心がある」と回答し、且つかなざわ食マネジメント専門職大学への進学について「進学を希望する」と回答した回答者は3人いる。同様に、高校卒業後の希望進路で「専門学校進学」と回答しているが、専門職大学に「たいへん関心がある」と回答し、且つかなざわ食マネジメント専門職大学への進学について「進学を希望する」と回答している回答者が7人いる。この3人と7人についても、本学への進学希望者として比較的期待が持てると考えられる。

なお、本アンケートについては、「専門職大学」と明確に表記して取得しており、専門職大学についての説明もしていることから、回答結果の信憑性は高いと考えられる。

E 第三者機関による追加の高校生アンケート調査

Dで実施した調査に加え、前回令和元年6月から9月に実施したアンケートに対して実施が困難であった北陸3県の高等学校に再度依頼を行い、そのうち以下の高等学校から回答を得た。なお、アンケートは前回と同様のものを使用した。

【資料10】

●高校生アンケート(追加)

「かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査」概要

調査時期：令和2年2月

調査対象：前回のアンケート調査に対して実施が困難であった北陸3県の高等学校に再度依頼を行い、各高等学校の2年生を対象に実施した。

調査方法：高等学校に直接訪問し依頼を行い、承諾を得た高等学校にアンケート調査票を必要部数配布し、郵送にて回収した。アンケート調査票のデータ入力

及び集計を株式会社ライセンスアカデミーが行った。

回収件数：有効回答 2,828 件

本アンケート調査において「進学を希望する」と回答した者は 27 名、「とりあえず受験してみたい」と回答した者は 60 名となり、合計 87 名が本学への入学意欲を示す回答が得られた。

更にクロス集計を行い分析すると、「進学を希望する」と回答した 27 名のうち、高校卒業後の希望進路で「大学進学・専門職大学進学」と回答したのは 22 名であり、このうち、専門職大学の関心で「たいへん関心がある」と回答したのは 18 名、「少し関心がある」と回答したのは 4 名である。高校卒業後の進路として大学又は専門職大学を希望し、かつ専門職大学に関心がある又は少し関心があると回答した 22 名については、進学希望者として特に期待できると考えられる。

以上のことから、前回実施のアンケート調査を合算すると 65 名（前回の 43 名と合わせて）の入学意向を示すこととなるため、学生確保の見通しの妥当性についての客観的根拠の 1 つとなると考えられる。

F 社会人アンケート調査

北陸 3 県の経営系大学及び全国の経営及び食に関わる経営系大学の社会人入学者の数は以下のとおりである。各大学の社会人入学者数の把握については、以下の公表されている情報をもとに算出した。

【資料 5-1 北陸 3 県の経営系大学の社会人入学者の数（令和元年度）】

令和元年度(2019)						
都道府県	大学名	学部	学科	入学者 (人)	うち、社会人 入学者数	割合
石川	金沢星稜	経済	経営	185	0	0.0
石川	金沢学院	経営情報	経営情報	216	0	0.0
石川	金沢工業	情報フロンティア	経営情報	71	—	—
石川	北陸	経済経営	マネジメント	285	3	0.01
福井	福井工業	環境情報	経営情報	107	0	0.0
			令和元年度計	864	3	0.0

【資料 5-2 全国の経営系大学の社会人入学者の数（令和元年度）】

令和元年度(2019)						
都道府県	大学名	学部	学科	入学者 (人)	うち、社会人 入学者数	割合
滋賀	立命館大学	食マネジメント学部	食マネジメント学科	250	—	0.0
愛知	名古屋文理大学	健康生活学部	フードビジネス学科	72	0	0.0
大阪	梅花女子大学	食文化学部	食文化学科	59	—	0.0
東京	昭和女子大学	生活科学部	食安全マネジメント 学科	86	0	0.0
大阪	大阪成蹊大学	マネジメント学部	マネジメント学科	85	0	0.0
東京	亜細亜大学	経営学部	ホスピタリティ マネジメント学科	158	0	0.0
東京	東京聖栄大学	健康栄養学部	食品学科	67	0	0.0
令和元年度計				777	0	0.0

このことから、調査した大学において社会人入学者は極めて少ない現状があり、本学としても社会人経験者を入学者の対象とはしていない根拠となっている。

しかしながら、専門職大学の特性として、入学者の多様性の確保への配慮を鑑みた際に、社会人へ門戸を開くことから選抜方法に社会人選抜を設定したものである。本学では社会人経験者を主たる入学者の対象とはしていないが、選抜において若干名の募集をしていることから、インターネットで入学意向調査を実施し、以下の概要において 31 票の回答を得た。【資料 1 1】

●社会人対象アンケート

「かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査」概要

調査時期：令和 2 年 2 月 14 日~28 日

調査対象：社会人経験 1 年以上を「社会人」と定義し、本学が運営する専門学校の卒業生及び臨地実習先の従業員を対象として実施した。

調査方法：本学のホームページにあるアンケートフォームで実施した。

回収件数：31 件

インターネットによる社会人アンケート調査において「入学を希望する」と回答した者は 3 名、「とりあえず受験してみたい」と回答した者は 9 名となり、合計 12 名が本学への入学意欲を示す回答が得られた。

更にクロス集計を行い分析すると、社会人経験を有する回答者のうち、「入学を希

望する」と回答した3名全員が「令和3年度」の入学を希望していることから、入学希望者として特に期待できると考えられる。

また、社会人経験を有する回答者のうち、「とりあえず受験してみたい」と回答し、かつ「令和3年度」の入学を希望する回答者が5名いる。この5名についても本学への入学希望者として比較的期待が持てると考えられる。

このことから、社会人を対象とした志願者は少ないながらも若干名の入学希望者が見込めると想定する。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、近隣の競合する大学と照らし合わせて設定した。入学金200,000円、学費は1,000,000円、合計1,200,000円に設定した。先の述べた競合する大学の学費は、金沢星稜大学は入学金120,000円、学費1,020,000円、合計1,140,000円。金沢学院大学は入学金200,000円、学費1,000,000円、合計1,200,000円。金沢工業大学は入学金200,000円、学費1,515,000円、合計1,715,000円。北陸大学は入学金200,000円、学費950,000円、合計1,150,000円。福井工業大学は入学金250,000円、学費1,280,000円、合計1,530,000円となっており、本校の学費設定は妥当といえる。

②学生確保に向けた具体的な取組み

ア 広報体制

体制については、法人本部に所属する「広報部」が中心となり、大学の教学組織内の教職員が一体となり、高校への訪問などの広報活動を展開する。

本学は新たに新設される大学であり、「大学や短期大学」及び「専門学校」との違いを最たる項目として、学習内容、学習方法、教授陣、学生の厚生施設など、志願者にとって不明な点が多くある。志願を検討している受験者に対し、それぞれの項目について丁寧な説明を行い、内容が十分に浸透するようにしっかりと周知することが、広報活動においてきわめて重要である。また、開学前から本学のことはもちろん、「専門職大学」としての認知向上を図ることも必要とされる。それらを踏まえて、本学では、アドミッション・ポリシーに適った学生確保に向けての広報活動を展開する。広報活動については、教職員全体として連携できる体制を構築する。具体的には、高校訪問や進学ガイダンス等での情報提供やオープンキャンパスを中心として、広く広報媒体を活用しながら、本学の情報提供及び専門職大学の説明を行っていく。

イ 広報活動内容

具体的な活動計画としては以下の通りである。

(1) 高校訪問等を通じた高等学校への情報提供

本法人は、4つの専門学校を運営する法人であり、姉妹法人が運営する4つの専

門学校とあわせて8つの専門学校を運営しており、特に北陸3県においては重点的に高校訪問を行い、年間を通じて複数回の訪問を行っていることで高校側とは強固な信頼関係を築いている。その基盤を専門職大学でも引継ぎ、高校訪問については継続的に実施し、高校の進路指導部との一層の連携強化を図る。

(2) 進学相談会への参加

業者が主に北陸で主催する進学相談会に参加し、高校生や保護者に対して直接本学の理念や設置の趣旨、アドミッション・ポリシーなどを説明する機会とする。また、専門職大学の説明も積極的に行うことで、周知活動も行っていく。また、オープンキャンパスへの参加を呼び掛けることで入学意欲を促進する。

(3) マスコミへの情報発信

本学の情報及び専門職大学についての情報を頻繁に新聞社やテレビ局等を通し発信する。また、地域の情報誌にも頻繁に発信する。

(4) 効果的な広報戦略

財政状況を勘案しつつ、オープンキャンパスや入学試験開催時期など、必要な時期に適切な広告を出稿する。学生確保にむけて早急な認知の獲得が必要な為、マスメディア広告（主にテレビCM、新聞広告等）に出稿するが、一方で若者を中心とした「マスメディア離れ」が指摘されており、入学予定者本人とその保護者への本学の情報接点づくりとして、SNS（Facebook、Twitter、Instagram）の活用も検討する。

(5) 個別見学の対応

年に複数回のオープンキャンパスの開催日を設定しているが、日程が合わずに参加できない方を対象として、希望者に対しては平日の個別相談を受け入れて対応する。

ウ 定員充足率 0.7 倍未満の既存専門学校の学生確保に向けた取組み

定員充足率が 0.7 倍未満の学部については、国際ペット専門学校金沢イオンペット社員養成学科の 0.61 倍、金沢医療事務専門学校医療事務総合学科の 0.56 倍、国際サイクル専門学校イオンバイク社員養成学科の 0.32 倍、スーパースイーツ調理専門学校の 0.42 倍の 4 校 4 学科である。いずれの学科についても以下の取組みを新たに加え、広報体制を強化して学生確保に努めていく。

(1) 教員を対象としたオープンキャンパス開催

主に高等学校の進路担当教員に上記 4 校への理解を深めてもらうことを目的として、実施を計画する。内容については、学校説明の後、該当校の授業を見学することで、

どのような教育を行っているのか理解を深めることや、高等学校ごとで個別対応し、情報交換を行う等を計画する。

(2) 歩留まり向上に向けた綿密な対応

学生が入学するまでの一般的な流れは、資料請求を行い、オープンキャンパスに参加をして入学を決めることが一番多い。このことから、オープンキャンパス時に広報担当を増員して配置し、きめ細かい対応を行い、1人でも多くの入学者増に取り組んでいく。

(3) 職業啓発イベントへの積極的な実施

国際ペット専門学校では「イオンペット株式会社のトリマーや動物看護師」、金沢医療事務専門学校では「医療事務」、国際サイクル専門学校では「イオンバイク株式会社の店舗スタッフ」として卒業後は従事することになる。それぞれの職業理解を深めてもらうために例えば高校生だけではなく、中学生等も対象とした職業体験などの機会を設け、募集活動を強化していく。

(4) 出張オープンキャンパス等の強化

なかなか来校することが出来ない主に県外の方を対象として、イオンバイク及びイオンペットのある店舗の場所を借りて、出張で学校説明や簡単な体験実習を通じて本学を知ってもらう機会を設ける。これまでも実施していたが、各店舗と協力体制を敷き、1人でも多くの方に周知できる機会を強化する。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学で養成する人材は、企業経営の基本を理解したうえでフードサービス企業の組織運営に関する基本的能力を備え、食材の選定・調達から商品化までに関する知識を身に付けた、フードサービスのプロフェッショナルである。

本学は、フードサービスマネジメント学部フードサービスマネジメント学科により構成され、経営学を基盤としてフードサービス企業の実務までを学ぶカリキュラム体系を構築している。

現在のフードサービス産業における最大の課題は、労働集約的面が強い産業であることと、定型化できないことにより属人的ノウハウの面が大きいことである。加えて、調理現場や食材の特性など、経営上重要な事業現場を理解していなければ組織マネジメントは難しい。つまり、企業経営の視点だけではなく、現場に関する視点も持ち合

わせた人が今後のフードサービス企業の管理者的立場の人間に求められるのである。

本学ではその課題解決のために設置するものである。フードサービス産業が今後より発展してゆくためには、明確な職業意識を持ち考え行動する人材が求められる。労働集約的な業界体質を変え、企業的経営により存在価値を高めていくことでフードサービス産業の将来的発展につながると確信している。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向などを踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 外部資料に基づく人材需要の見込み

フードサービス産業の市場規模について、一般社団法人日本フードサービス協会及び、財団法人食の安全・安心財団資料の外出産業市場規模推計による推移をみると、市場そのものは平成9年の29兆円をピークに減少を続けていた。これは、バブル崩壊以降の長期デフレ傾向による値下げ、顧客単価の低下などを反映しているとみられる。さらに平成20年のリーマンショックがそれに追い打ちをかけた。

平成23年には東日本大震災が発生し、経済は大打撃を受けたものの以降から復興支援の効果もあり、平成23年(2011年)の22.8兆から再び回復基調に転じ、その後のインバウンド増加などに支えられて、平成29年(2017年)は25.6兆円の規模となっている【資料12】。このことから、フードサービス産業において、突発的な社会的要因により影響は受けるものの、単身者家庭増加による調理作業の省力化ニーズや、女性の社会進出などによる外部サービス利用拡大といった傾向が続くと考えられ、それらの要因がフードサービス業界にはプラスに働き今後も安定した需要が存在すると推測される。また、観光立国という政策的な動きによるインバウンドの一層の増加も予想され、市場としてはサービスの高度化などあらたな価値づけによる成長が期待できる業界であると考えられる。

次に一般社団法人日本フードサービス協会の加盟企業を対象とした、月次外出産業市場動向調査によると、前年の売り上げを100とした際に、平成27年(2015年)から4年連続前年を上回っており、内訳として「パブレストラン/居酒屋」以外、「ファーストフード」「ファミリーレストラン」「ディナーレストラン」「喫茶」ほか全ての業態で上回っている。要因としては、長期のデフレ傾向が弱まってきたことにより、フードサービス業界へのプラスの影響があることが伺える【資料13】。

次に本学の養成する人材の必要性について、帝国データバンクの2018年度の飲食店の倒産・休廃業・解散件数のデータによると2018年は1180件であり、東日本大震災が発生後の2011年度(1134件)、リーマン・ショックが発生した2008年度(1113

件)を上回り、2000年度以降で最多を更新した【資料14】。原因として倒産の8割の主因が「販売不振」で、人手不足が原因となった例は顕著となっているわけではないが、同社の調査により、人手不足を背景とした販売不振に陥っている事業者は少なくないとする。

このことから参入の容易なフードサービス業界は、結果的に競争が激しくなり、生き残る要素として戦略的な経営ができることや、新たな発想による他社との差別化、効率化のためにICTの活用といった関連分野まで知識を有する人材が求められている。このことは本学が実施した事業所アンケートの設問7「中核人材に求める知識・能力」の回答結果とも整合性が取れる。

イ 第三者機関による企業アンケート調査

本学では、フードサービスマネジメント学部フードサービスマネジメント学科における卒業後の人材需要の見通しを測定するため、第三者機関である「一般財団法人 日本開発構想研究所」を介して、以下の内容で事業所アンケート調査を実施した【資料15】。

● 事業所アンケート「かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査」概要

調査時期：令和元年7月中旬～9月上旬

調査対象：(1) 一般社団法人日本フードサービス協会に加盟する企業43社
(2) 食100年の会に加盟する企業17社
合計 60社(重複する企業はいずれかのみカウント)

調査方法：郵送によるアンケート調査票の配布・回収及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

回収件数：有効回答数60件

A 回答者の属性

①主な業態

業 態	件 数	割 合
1. 飲食店・レストラン	56	93.3%
2. 宿泊施設・ホテル	2	3.3%
3. 喫茶店・カフェ	12	20.0%
4. 居酒屋	12	20.0%
5. その他	10	16.7%

②従業員数（正規社員）

業 態	件 数	割 合
1. 20 名未満	2	3.3%
2. 21 名～50 名未満	3	5.0%
3. 51 名～100 名未満	8	13.3%
4. 101 名～300 名未満	2	40.0%
5. 301 名以上	23	38.3%

B 企業における近年の人材充足状況について

設問4について、職種またはポジションごとに「不足」及び「やや不足」をまとめると以下の通りとなった。

区 分	不足	やや不足	合計	割合
一般事務系正社員	0	13	13	21.7%
調理加工技術をもつ社員	25	18	43	81.7%
店長等の現場責任者クラス	33	20	53	98.3%
中核となるミドルクラス社員	23	26	49	81.7%
企画や開発部門のマネージャー	12	23	35	58.3%
総務・人事等の事務スタッフのマネージャー	2	26	28	46.6%

この結果により、フードサービス企業の多くでは、共通して「店長等の現場責任者」が不足しており、また店長より上のポジションである、「中核となるミドルクラス」の人材も合わせて不足していることがわかる。また、調理加工の技術を持つ社員も不足しており、設問5「組織の中核を担う人材の調理技術の必要性」の設問では「調理師の資格や高度な調理技術は不要だが、調理経験や調理現場の仕組みやオペレーションを理解していることが望ましい」の設問に対して合算すると49社81.7%の企業が望んでいることがわかり、現場の事を理解した店舗マネージャー及び中核となるミドルクラスの社員が求められていることが分かる。

C 企業における中核人材に求める知識・能力

設問7について、知識及び能力ごとに一覧化して、「やや重視」と「非常に重視」を

まとめると以下の通りとなった。

区 分	重視	やや重視	合計	割合
コミュニケーション能力	14	45	59	98.3%
プレゼンテーション能力	38	10	48	80.0%
リーダーシップ能力	18	40	58	96.7%
発想・企画力	43	8	51	85.0%
語学力	7	3	10	16.7%
データ分析・市場分析力	45	7	52	86.7%
食材や商品に関する知識・商品開発能力	40	9	49	81.7%
情報システムやソフトウェアを使う能力	27	1	28	46.7%
企業運営全般に関する理解力	33	18	51	85.0%
調理や店舗など現場の仕組みの違い・経験	27	28	55	91.7%
その他	3	6	9	15.0%

以上の結果より、企業の中核人材に求める知識及び能力は概ね共通しており、本学の教育課程とも大きく相違しない結果となった。また、ICTに関連する情報システムやソフトウェアを使う能力などが46.7%に留まっているが、フードサービス業界に限らず、急速な進化を続ける分野を学修することは、業界の5年後、10年後を見据えた人材養成に必要であると考えているため、教育課程とも符合していると考えられる。

D 企業における大卒新卒者を採用する際に重視する点

設問9においては、特に「フードサービス産業を理解し関心がある」点に41社68.3%の企業が重視しており、フードサービス企業で就職するまえにフードサービス産業を理解することが望まれていることがわかる。それは同設問の「忍耐力がある」を重視する企業が33社55.0%、「協調性がある」を重視する45社75.0%から、業界理解を

したうえで、他分野においても一般的に求められている忍耐力や協調性の部分を重視することからも、本学の教育課程と符合しているといえる。

E 本学卒業生の採用意向及び採用人数

設問 13 では、本学の養成する卒業生の採用意向を調査したが、実に 60 社中 57 社 (95%) が採用したい意向を示し、本学への高い期待が伺える。また、本学卒業生の毎年の採用人数についても多くの企業で複数名の意向を示していただいている。

以上の調査結果から、本学の養成する人材は、フードサービス企業において安定的で高い採用需要があると認められる。

資料目次

- 【資料 1】 日本私立学校振興・共済事業団「平成 31 年度私立大学・短期大学等入学志願動向（大学）」（抜粋）
- 【資料 2】 学校基本調査速報「北陸 3 県の令和元年度高校 2 年生の在学者数」（抜粋）
- 【資料 3】 文部科学白書 2017「18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」（抜粋）
- 【資料 4】 リクルート進学総研「18 歳人口予測」（抜粋）
- 【資料 5】 リクルート進学総研「18 歳人口の減少率予測（2018 年～2030 年）」（抜粋）
- 【資料 6】 リクルート進学総研「大学進学率の推移(2008 年～2017 年)」（抜粋）
- 【資料 7】 リクルート進学総研「地元残留率の推移（2009 年～2018 年）」（抜粋）
- 【資料 8】 リクルート進学総研「地元残留率（都道府県別 2018 年）」（抜粋）
- 【資料 9】 一般財団法人日本開発構想研究所「かなざわ食マネジメント専門職大学（仮称）設置に関するニーズアセスメント調査 学生の確保の見通しに関するアンケート調査（入口調査）」
- 【資料 10】 株式会社ライセンスアカデミー「かなざわ食マネジメント専門職大学（仮称）設置に関するニーズアセスメント調査 学生の確保の見通しに関するアンケート調査（入口調査）」
- 【資料 11】 インターネットによる社会人調査「かなざわ食マネジメント専門職大学設置に関するアンケート調査」
- 【資料 12】 一般社団法人日本フードサービス協会、(財)食の安全・安心財団「外食産業市場規模（推計値）」（抜粋）
- 【資料 13】 一般社団法人日本フードサービス協会「JF 外食市場動向調査 年別データ」（抜粋）
- 【資料 14】 株式会社帝国データバンク「『倒産』『休廃業・解散』との件数・負債額推移」（抜粋）
- 【資料 15】 一般財団法人日本開発構想研究所「かなざわ食マネジメント専門職大学（仮称）設置に関するニーズアセスメント調査 学生の確保の見通しに関するアンケート調査（出口調査）」

資料 2

<石川県の高校2年生> 10,208人 令和元年度石川県学校基本統計速報より抜粋

高等学校市町別学年別生徒数(3-1)

1. 計(全日制+定時制)

(単位:人)

区分	計			本 科												専攻科		別科	
				計			1学年		2学年		3学年		4学年						
	計	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
平成30年度	31,987	16,309	15,678	31,913	16,307	15,606	5,393	5,134	5,517	5,231	5,324	5,205	73	36	2	72	-	-	
令和元年度	31,532	16,194	15,338	31,457	16,192	15,265	5,507	5,137	5,227	4,991	5,401	5,100	57	47	2	73	-	-	
国立	363	184	179	363	184	179	60	60	59	62	65	57	-	-	-	-	-	-	
公立	22,256	11,246	11,010	22,181	11,244	10,937	3,748	3,683	3,647	3,572	3,792	3,635	57	47	2	73	-	-	
私立	8,913	4,764	4,149	8,913	4,764	4,149	1,699	1,394	1,521	1,347	1,544	1,408	-	-	-	-	-	-	
201 金沢市	17,503	8,809	8,694	17,503	8,809	8,694	3,020	2,932	2,863	2,870	2,896	2,879	30	13	-	-	-	-	
202 七尾市	1,826	823	1,003	1,751	821	930	283	295	242	302	292	333	4	-	2	73	-	-	
203 小松市	4,529	2,321	2,208	4,529	2,321	2,208	770	754	779	689	754	741	18	24	-	-	-	-	
204 輪島市	1,196	742	454	1,196	742	454	236	130	253	156	253	167	-	1	-	-	-	-	
205 珠洲市	353	170	183	353	170	183	56	64	48	66	66	53	-	-	-	-	-	-	
206 加賀市	965	494	471	965	494	471	156	161	138	151	197	158	3	1	-	-	-	-	
207 羽咋市	1,007	586	421	1,007	586	421	186	149	201	130	197	134	2	8	-	-	-	-	
209 かほく市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
210 白山市	1,229	702	527	1,229	702	527	282	185	195	172	225	170	-	-	-	-	-	-	
211 能美市	481	283	198	481	283	198	92	55	94	64	97	79	-	-	-	-	-	-	
212 野々市市	830	413	417	830	413	417	138	144	141	135	134	138	-	-	-	-	-	-	
324 川北町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
361 津幡町	410	242	168	410	242	168	93	66	71	58	78	44	-	-	-	-	-	-	
365 内灘町	238	153	85	238	153	85	55	25	50	31	48	29	-	-	-	-	-	-	
384 志賀町	135	70	65	135	70	65	20	25	32	15	18	25	-	-	-	-	-	-	
386 宝達志水町	117	52	65	117	52	65	18	24	14	25	20	16	-	-	-	-	-	-	
407 中能登町	388	155	233	388	155	233	40	72	47	70	68	91	-	-	-	-	-	-	
461 穴水町	119	57	62	119	57	62	19	25	21	16	17	21	-	-	-	-	-	-	
463 能登町	206	122	84	206	122	84	43	31	38	31	41	22	-	-	-	-	-	-	

<富山県の高校2年生> 9,024人 令和元年度学校基本統計速報より抜粋

表14 学年別生徒数(本科+専攻科)

(単位:人)

年度	計	男子	女子	本 科					専攻科
				計	1学年	2学年	3学年	4学年	
平成27	28,671	14,394	14,277	28,416	9,662	9,387	9,264	103	255
28	28,624	14,391	14,233	28,356	9,576	9,487	9,192	101	268
29	28,708	14,438	14,270	28,446	9,642	9,396	9,324	84	262
30	28,286	14,358	13,928	28,035	9,215	9,470	9,242	108	251
令和元	27,680	13,984	13,696	27,428	9,028	9,024	9,282	94	252

表15 学科別生徒数(本科のみ)

(単位:人)

年度	計	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	その他	総合
平成27	28,416	18,521	567	3,425	2,247	178	666	117	99	1,168	1,428
28	28,356	18,541	553	3,403	2,241	180	648	118	90	1,157	1,425
29	28,446	18,647	538	3,469	2,218	179	595	119	90	1,160	1,431
30	28,035	18,319	497	3,461	2,206	178	596	115	90	1,152	1,421
令和元	27,428	17,789	475	3,486	2,183	176	590	117	90	1,150	1,372
男子	13,897	8,643	290	2,988	825	122	52	4	4	559	410
女子	13,531	9,146	185	498	1,358	54	538	113	86	591	962

注) 理数関係及び外国語関係はその他に分類されている(探究科学科を含む)。

表16 学科別生徒数構成比(本科のみ)

(単位:%)

年度	計	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	その他	総合
平成27	100.0	65.2	2.0	12.1	8.0	0.6	2.3	0.4	0.3	4.1	5.0
28	100.0	65.4	2.0	12.0	7.9	0.6	2.3	0.4	0.3	4.1	5.0
29	100.0	65.6	1.9	12.2	7.8	0.6	2.1	0.4	0.3	4.1	5.0
30	100.0	65.3	1.8	12.3	7.9	0.6	2.1	0.4	0.3	4.1	5.1
令和元	100.0	64.9	1.7	12.7	8.0	0.6	2.2	0.4	0.3	4.2	5.0
男子	100.0	62.2	2.1	21.5	5.9	0.9	0.4	0.0	0.0	4.0	3.0
女子	100.0	67.6	1.4	3.7	10.0	0.4	4.0	0.8	0.6	4.4	7.1

注) 理数関係及び外国語関係はその他に分類されている(探究科学科を含む)。

<福井県の高校2年生> 7,268人 令和元年度学校基本統計速報より抜粋

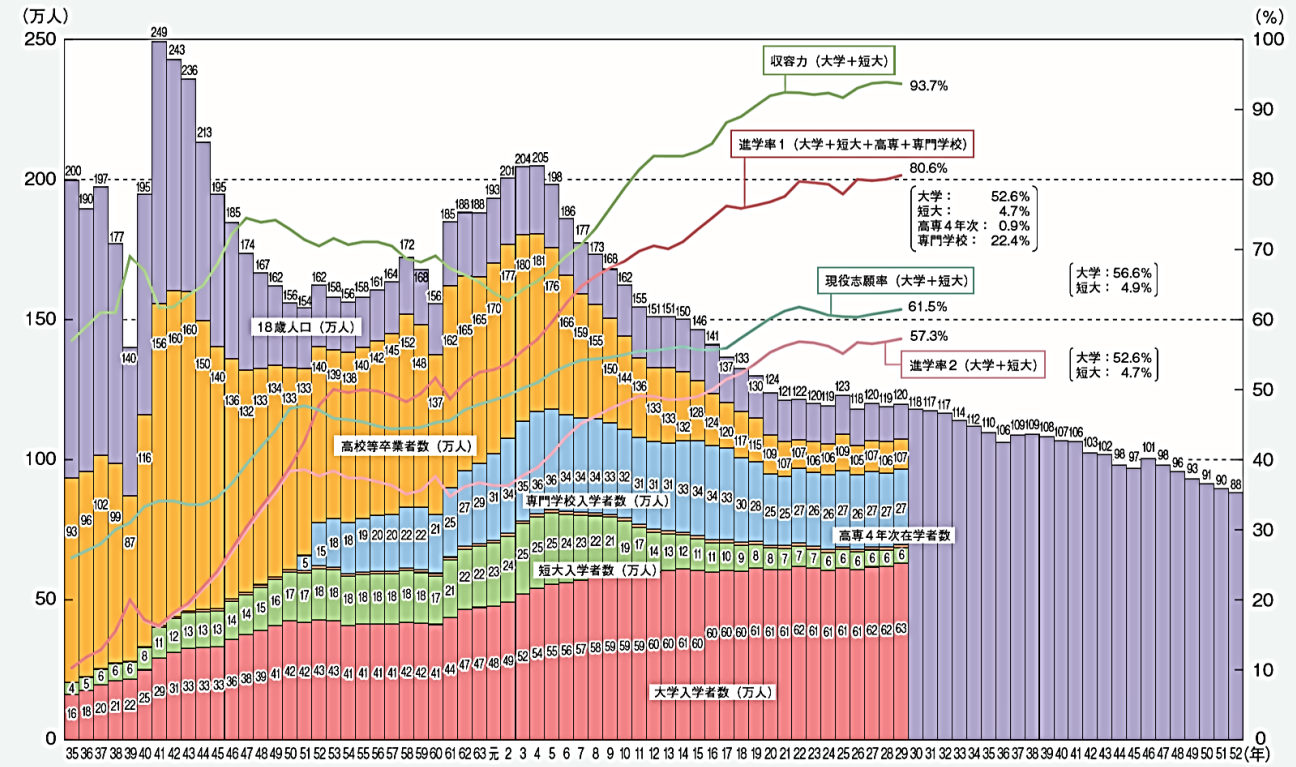
表7 高等学校の推移

区 分	学校数			生徒数									専攻科	教員数
	計	本校	分校	計	全日制			定時制						
					1学年	2学年	3学年	1学年	2学年	3学年	4学年			
平成27年度	38	36	2	23,026	7,396	7,460	7,129	289	309	278	88	77	1,711	
平成28年度	36	34	2	22,839	7,230	7,262	7,330	299	269	309	68	72	1,682	
平成29年度	35	34	1	22,592	7,293	7,114	7,136	316	290	266	93	84	1,677	
平成30年度	35	34	1	22,265	7,112	7,178	6,964	284	303	293	57	74	1,661	
令和元年度	35	34	1	21,856	6,827	6,995	7,055	275	273	287	70	74	1,654	

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

18歳人口は、平成21～32年頃までほぼ横ばいで推移するが、33年頃から再び減少することが予測されている。

- 18歳人口= 3年前の中学校卒業生数及び中等教育学校前期課程修了者数
- 進学率1= $\frac{\text{当該年度の大学・短大・専門学校の入学者数}}{\text{18歳人口}}$
- 進学率2= $\frac{\text{当該年度の大学・短大の入学者数}}{\text{18歳人口}}$
- 高校等卒業生数= 高等学校卒業生数及び中等教育学校後期課程修了者数
- 現役志願率= $\frac{\text{当該年度の高校等卒業生数のうち大学・短大へ願書を提出した者の数}}{\text{当該年度の高校等卒業生数}}$
- 収容力= $\frac{\text{当該年度の大学・短大入学者数}}{\text{当該年度の大学・短大志願者数}}$

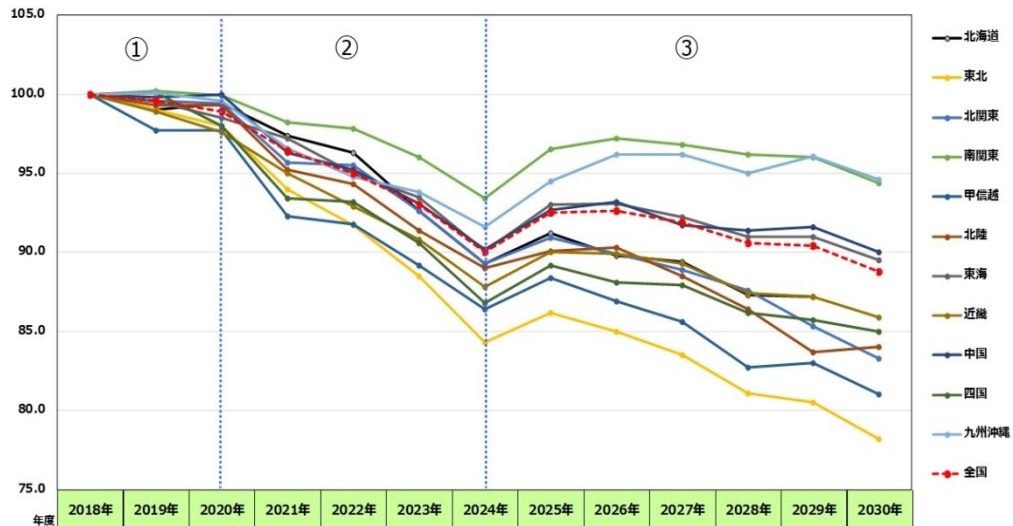


※進学率、現役志願率については、少数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。
 (出典) 文部科学省「学校基本統計」、平成42年～52年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成

出典：文部科学白書2017「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」

18歳人口予測(全体：エリア別：2018～2030年)

(2018年を100とした割合)



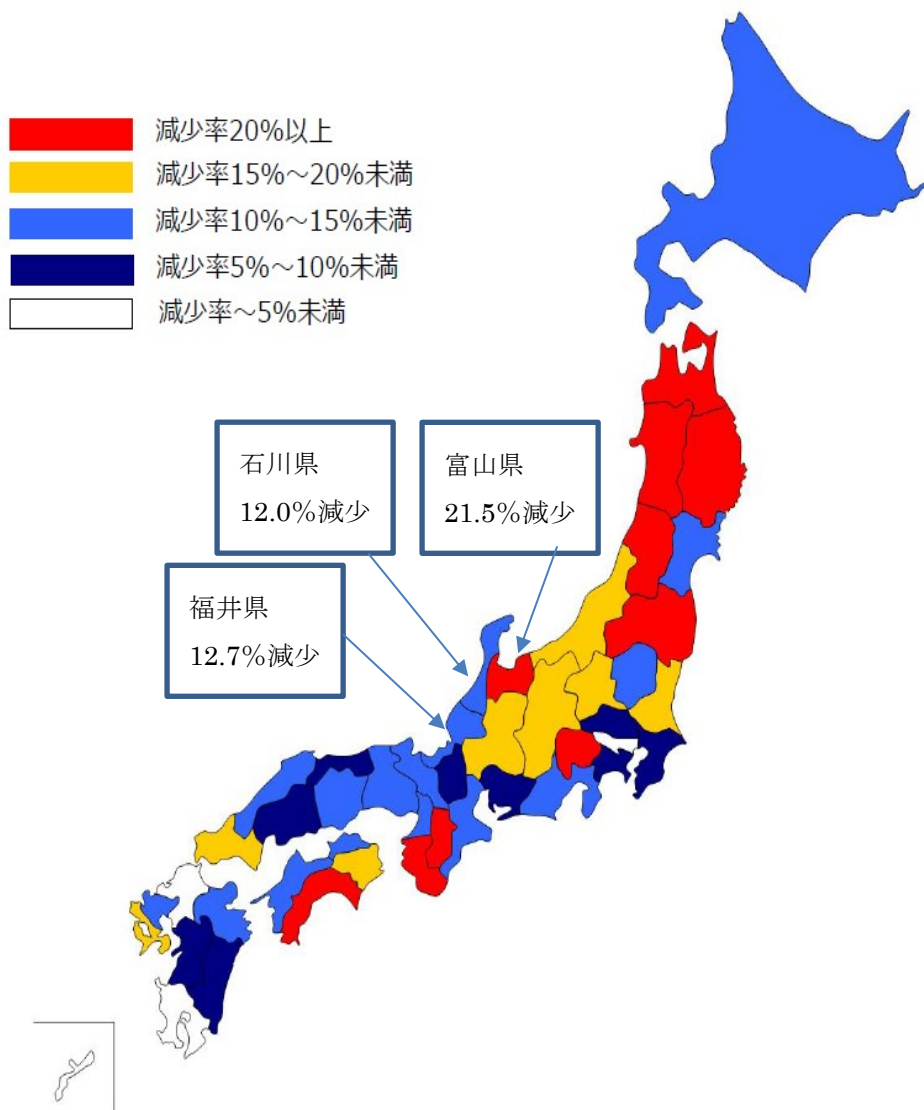
年度		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
全国	人数	1,179,808	1,174,801	1,167,348	1,136,822	1,120,783	1,096,654	1,061,763	1,091,093	1,092,747	1,084,391	1,068,454	1,066,320	1,048,163
	割合	100.0	99.6	98.9	96.4	95.0	93.0	90.0	92.5	92.6	91.9	90.6	90.4	88.8
北海道	人数	45,961	45,486	45,674	44,770	44,249	42,555	41,028	41,934	41,257	41,073	40,146	40,072	39,300
	割合	100.0	99.0	99.4	97.4	96.3	92.6	89.3	91.2	89.8	89.4	87.3	87.2	85.5
東北	人数	85,215	84,393	83,524	80,089	78,156	75,428	71,877	73,484	72,408	71,127	69,081	68,625	66,634
	割合	100.0	99.0	98.0	94.0	91.7	88.5	84.3	86.2	85.0	83.5	81.1	80.5	78.2
北関東	人数	66,753	66,461	66,380	63,909	63,747	61,824	59,620	60,674	60,020	59,369	58,485	56,951	55,613
	割合	100.0	99.6	99.4	95.7	95.5	92.6	89.3	90.9	89.9	88.9	87.6	85.3	83.3
南関東	人数	305,851	306,595	305,457	300,197	299,208	293,739	285,805	295,031	297,360	295,930	294,296	293,610	288,607
	割合	100.0	100.2	99.9	98.2	97.8	96.0	93.4	96.5	97.2	96.8	96.2	96.0	94.4
甲信越	人数	51,080	49,910	49,897	47,132	46,887	45,572	44,112	45,133	44,384	43,706	42,235	42,376	41,381
	割合	100.0	97.7	97.7	92.3	91.8	89.2	86.4	88.4	86.9	85.6	82.7	83.0	81.0
北陸	人数	29,216	29,024	29,004	27,814	27,540	26,717	26,011	26,329	26,375	25,855	25,238	24,459	24,530
	割合	100.0	99.3	99.3	95.2	94.3	91.4	89.0	90.1	90.3	88.5	86.4	83.7	84.0
東海	人数	147,726	147,041	145,478	143,538	140,396	138,153	133,157	137,325	137,600	136,268	134,394	134,399	132,227
	割合	100.0	99.5	98.5	97.2	95.0	93.5	90.1	93.0	93.1	92.2	91.0	91.0	89.5
近畿	人数	199,747	197,547	195,001	189,786	185,555	181,453	175,469	179,758	179,609	178,376	174,494	174,161	171,661
	割合	100.0	98.9	97.6	95.0	92.9	90.8	87.8	90.0	89.9	89.3	87.4	87.2	85.9
中国	人数	70,160	70,045	70,193	67,537	66,759	65,325	63,288	65,057	65,370	64,326	64,115	64,237	63,176
	割合	100.0	99.8	100.0	96.3	95.2	93.1	90.2	92.7	93.2	91.7	91.4	91.6	90.0
四国	人数	36,296	36,321	35,553	33,908	33,836	32,886	31,506	32,371	31,981	31,914	31,291	31,100	30,835
	割合	100.0	100.1	98.0	93.4	93.2	90.6	86.8	89.2	88.1	87.9	86.2	85.7	85.0
九州沖縄	人数	141,803	141,978	141,187	136,977	134,450	133,002	129,890	133,997	136,383	136,447	134,679	136,330	134,199
	割合	100.0	100.1	99.6	96.6	94.8	93.8	91.6	94.5	96.2	96.2	95.0	96.1	94.6

※文部科学省「H30年度（2018年）学校基本調査（速報値）」より

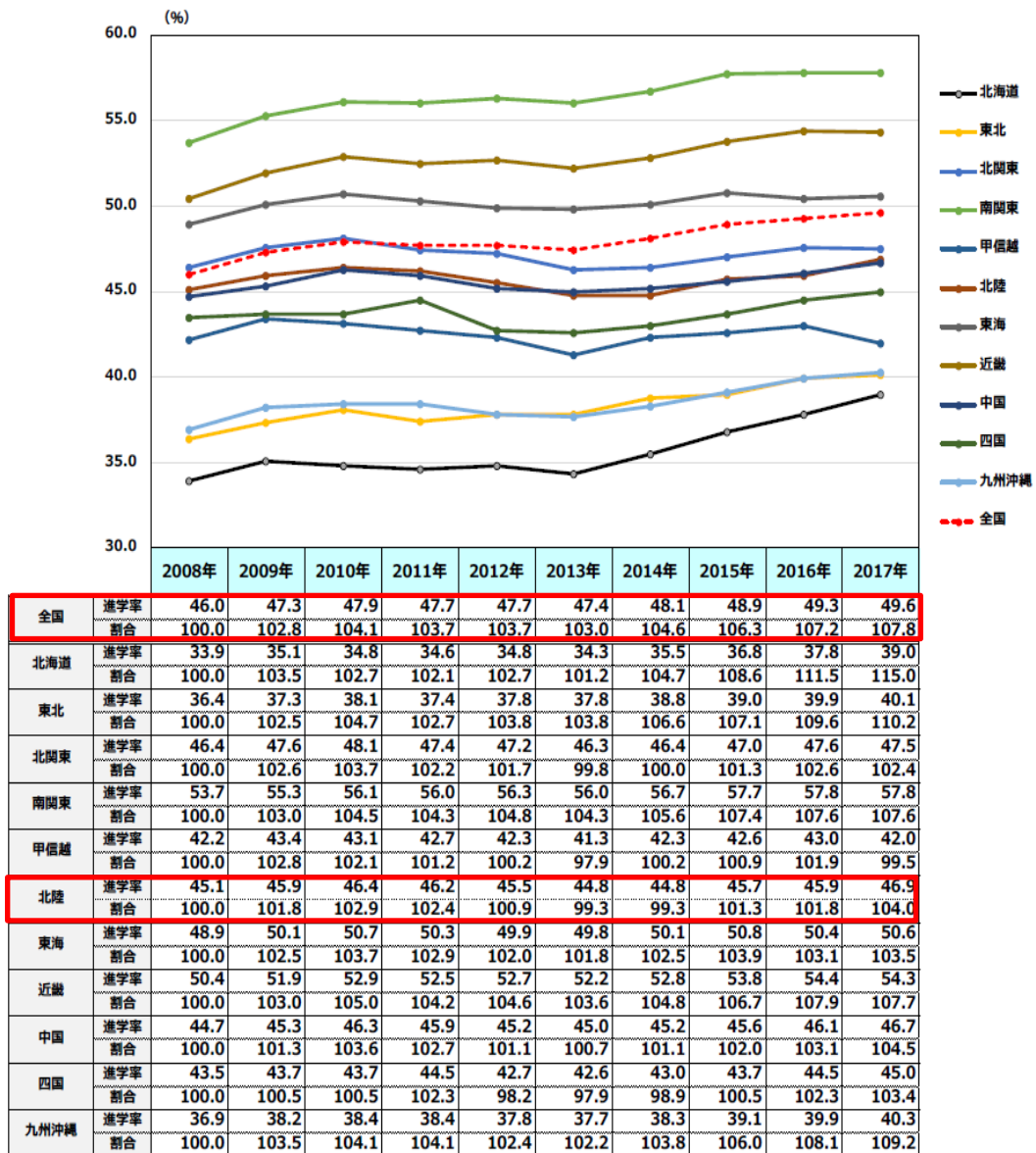
※2021年度の各エリアには、中等教育学校前期課程修了者数は含まれていない（H30年度（2018年）学校基本調査速報版で公表していない）ため、エリア合計と全国の合計は一致しない。

※学校基本調査を基にリクルート進学総研にて作成

出典：リクルート進学総研「18歳人口予測」



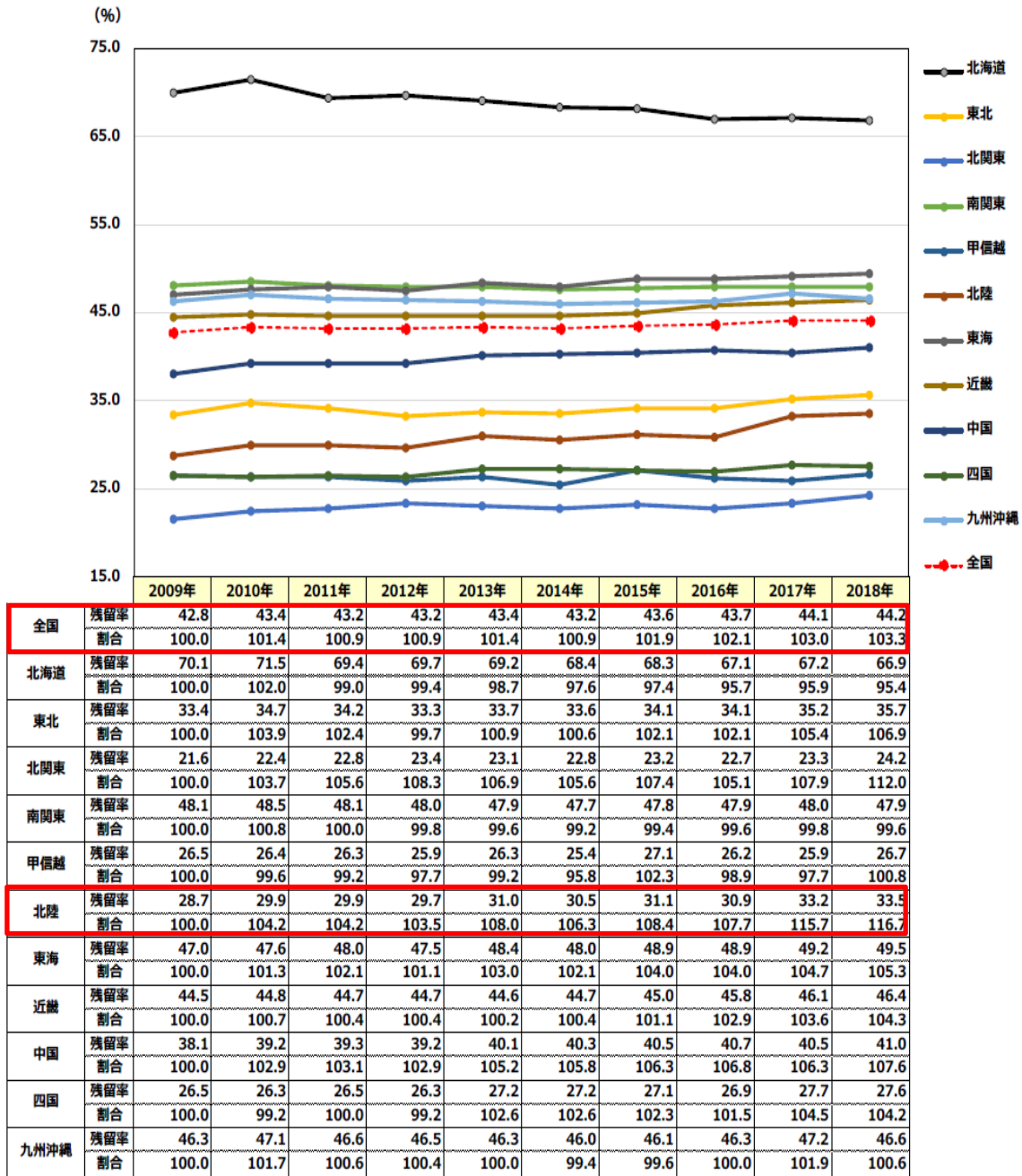
出典：リクルート進学総研 「18歳人口の減少率予測（2018年～2030年）」



※文部科学省「H29年度（2017年）学校基本調査（確報）」より。

出典：リクルート進学総研「大学進学率の推移（2008年～2017年）」

資料 7



※文部科学省「学校基本調査（確報）」より、H30年（2018年）は速報値

出典：リクルート進学総研 「地元残留率の推移（2009年～2018年）」

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート
高校生アンケート集計結果

令和元年 9 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

<アンケート調査概要>	1
<アンケート集計結果>	3
<アンケート調査票>	11

<アンケート調査概要>

1. アンケート調査の目的

学校法人国際ビジネス学院では、「かなざわ食マネジメント専門職大学 フードサービスマネジメント学部 フードサービスマネジメント学科」（仮称）の開設を目指し、高校生の新専門職大学への進学意向を把握するために、高校生を対象にアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

「かなざわ食マネジメント専門職大学設置に関するアンケート調査」

3. 調査対象

石川県内既設大学の入学者の出身地の傾向を踏まえ、石川県内の高等学校を中心に、富山県、福井県及び岐阜県に所在する高等学校を選定し、各高校の2年生を対象に、アンケート調査を実施した。（回収表はP.5を参照）

4. 調査実施

令和元年6月～9月に調査を実施した。

5. 調査方法

郵送により各高校へアンケート調査票を配布し、各高校にて調査実施後、郵送にて回収した。アンケート調査票の配布、回収、データ入力及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

6. 回収率

回収票数 5,501 票 回収率 90.2%（回収高校 46 校 ÷ 依頼高校 51 校 × 100）（回収表は P.5 を参照）

<アンケート集計結果>

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査 回収表

回収日	県	所在	No.	高校	ナンバリング		回収数
6.25	1	石川県	1	石川県立輪島高等学校	1	134	134
6.28	1	石川県	2	鹿西高等学校	135	172	38
7.09	1	石川県	3	石川県立金沢泉丘高等学校	213	279	67
7.17	1	石川県	4	石川県立小松商業高等学校	1650	1808	159
7.17	1	石川県	5	石川県立内灘高等学校	1809	1876	68
7.05	1	石川県	6	石川県立小松工業高等学校	173	212	40
7.29	1	石川県	7	小松大谷高等学校	4600	4828	229
	3	福井県	8	福井県立坂井高等学校			
7.19	1	石川県	9	金沢市立工業高等学校	1877	2103	227
7.18	1	石川県	10	石川県立大聖寺実業高等学校	2104	2197	94
7.16	1	石川県	11	石川県立鶴来高等学校	280	378	99
7.19	1	石川県	12	小松市立高等学校	2198	2271	74
7.09	3	福井県	13	啓新高等学校	379	411	33
7.11	1	石川県	14	石川県立小松高等学校	412	527	116
7.23	1	石川県	15	金沢高等学校	3631	3923	293
7.16	1	石川県	16	北陸学院高等学校	528	709	182
8.01	1	石川県	17	石川県立穴水高等学校	5078	5114	37
7.10	1	石川県	18	鵬学園高等学校	710	808	99
7.26	1	石川県	19	石川県立金沢辰巳丘高等学校	4423	4497	75
	1	石川県	20	石川県立七尾東雲高等学校			
7.26	2	富山県	21	富山県立志貴野高等学校	4498	4560	63
7.10	1	石川県	22	石川県立津幡高等学校	809	874	66
7.12	1	石川県	23	石川県立羽咋高等学校	875	952	78
7.29	1	石川県	24	石川県立翠星高等学校	4829	4855	27
9.04	1	石川県	25	石川県立金沢向陽高等学校	5289	5358	70
7.12	1	石川県	26	遊学館高等学校	953	1319	367
7.22	6	岐阜県	27	高山西高等学校	2585	2727	143
7.18	1	石川県	28	石川県立金沢西高等学校	2272	2558	287
7.10	1	石川県	29	石川県立寺井高等学校	1320	1465	146
7.26	2	富山県	30	富山県立桜井高等学校	4561	4599	39
7.25	1	石川県	31	星稜高等学校	4113	4422	310
7.22	1	石川県	32	石川県立金沢二水高等学校	2728	3108	381
7.11	2	富山県	33	富山県立雄山高等学校	1466	1609	144
7.31	1	石川県	34	石川県立門前高等学校	4856	4888	33
	1	石川県	35	石川県立志賀高等学校			
7.22	1	石川県	36	石川県立金沢錦丘高等学校	3109	3412	304
7.22	1	石川県	37	石川県立飯田高等学校	3413	3521	109
8.02	1	石川県	38	石川県立金沢北陵高等学校	5184	5266	83
	1	石川県	39	金沢市立工業高等学校			
7.19	1	石川県	40	石川県立加賀高等学校	2559	2584	26
7.16	1	石川県	41	石川県立羽咋工業高等学校	1610	1649	40
7.23	1	石川県	42	石川県立金沢中央高等学校	3924	3996	73
7.24	1	石川県	43	石川県立七尾高等学校	3997	4112	116
8.01	3	福井県	44	福井南高等学校	5115	5183	69
	1	石川県	45	アットマーク国際高等学校			
7.29	1	石川県	46	石川県立金沢桜丘高等学校	4889	4928	40
7.31	1	石川県	47	石川県立金沢伏見高等学校	4929	5077	149
7.22	3	福井県	48	福井県立丸岡高等学校	3522	3630	109
9.04	1	石川県	49	石川県立松任高等学校	5359	5460	102
9.06	3	福井県	50	福井県立丹生高等学校	5461	5501	41
8.23	3	福井県	51	星槎国際高等学校 福井学習センター	5267	5288	22
46校						計	5501

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査

集 計 表

[有効回答票 : 5,501 票]

問 1 あなたの性別についておたずねします。

	人数	%
1 男性	2608	47.4
2 女性	2893	52.6
N (% [^] -λ)	5501	100.0

問 2 あなたがお住まいの県についてお尋ねします。

上段:人 下段:%	合計	1 石川県	2 富山県	3 福井県	4 新潟県	5 長野県	6 岐阜県	7 その他
全体	5501 100.0	4804 87.3	257 4.7	275 5.0	5 0.1	- -	145 2.6	15 0.3
男性	2608 100.0	2301 88.2	76 2.9	155 5.9	3 0.1	- -	63 2.4	10 0.4
女性	2893 100.0	2503 86.5	181 6.3	120 4.1	2 0.1	- -	82 2.8	5 0.2

(「7 その他」の回答)

東京	愛知	東京都江戸川区	兵庫県	大阪府
愛知	東京都八王子市	大阪府	グアム	大阪府
東京都	和歌山県	広島県広島市	大阪府	愛知県

問3 あなたの進路についておたずねします。あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。

上段:人 下段:%	合計	1 大学進学・ 専門職大学 進学	2 短期大学・ 専門職短期 大学進学	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明
全体	5501	3114	396	800	1076	105	10
	100.0	56.6	7.2	14.5	19.6	1.9	0.2
男性	2608	1597	57	253	644	52	5
	100.0	61.2	2.2	9.7	24.7	2.0	0.2
女性	2893	1517	339	547	432	53	5
	100.0	52.4	11.7	18.9	14.9	1.8	0.2

(「5 その他」の回答)

まだ未定	決まってない	不明	ボランティア活動
決まってない	決まっていない	まだ決まっていない	養成所
現職を続けるか再就職	決まっていない	まだ決まっていない	ポートレーサー養成所
未定	留学	決まっていない	まだ正確に決まっていません
決まってない	ニート	決まってない	決まってない
未定	決めてない	未定	未定
留学	特に決まっていない	まだ決まっていない	未定
まだ決めていない	専門学校か就職	公務員	未定
決まってない	決まっていない	わからない	留学
公務員(警察官)	まだ決めていない	決まっていない	自衛隊
まだ決めていない	公務員	未定	きまってない
未定	まだ決まっていない	公務員	決まってない
決まってない	未定	決まってない	未定

(問4以降は、問3で「1 大学進学・専門職大学進学」3,114人、「2 短期大学進学・専門職短期大学進学」396人、「3 専門学校進学」800人と回答した4,310人による設問)

問4 専門職大学は、従来の大学や短期大学とは異なる教育機関として新たにつくられた高等教育機関です。実際の会社やお店などで行う実習教育が従来の大学や短期大学よりも多いのが特徴です。また、教員の中には社会の第一線で活躍している実務家が含まれ、最先端の知識や技能を学ぶことができるのも特徴の一つです。

あなたは、このような実践的な教育を行う専門職大学に関心がありますか。

上段:人 下段:%	合計	1 たいへん 関心がある	2 少し関心がある	3 あまり関心 はない	4 まったく 関心はない	不明
全体	4310	575	2079	1212	409	35
	100.0	13.3	48.2	28.1	9.5	0.8
男性	1907	236	866	552	240	13
	100.0	12.4	45.4	28.9	12.6	0.7
女性	2403	339	1213	660	169	22
	100.0	14.1	50.5	27.5	7.0	0.9

問5 あなたはかなざわ食マネジメント専門職大学 フードサービスマネジメント学部
フードサービスマネジメント学科への進学を希望しますか。

上段:人 下段:%	合計	1 進学を 希望する	2 とりあえず 受験して みたい	3 進学を 希望しない	4 わからない	不明
全体	4310	63	78	2971	1188	10
	100.0	1.5	1.8	68.9	27.6	0.2
男性	1907	46	30	1294	533	4
	100.0	2.4	1.6	67.9	27.9	0.2
女性	2403	17	48	1677	655	6
	100.0	0.7	2.0	69.8	27.3	0.2

〔参考〕高校ごとの進学希望者（回答のあった高校のみ）

問5 かなざわ食マネジメント専門職大学 への進学希望 単位：人	進学を 希望する	とりあえず受 験してみたい	合 計
全 体	63	78	141
1 石川県立輪島高等学校	1	2	3
2 鹿西高等学校	-	1	1
3 石川県立金沢泉丘高等学校	-	3	3
4 石川県立小松商業高等学校	2	1	3
5 石川県立内灘高等学校	2	2	4
6 石川県立小松工業高等学校	1	1	2
7 小松大谷高等学校	3	3	6
9 金沢市立工業高等学校	1	2	3
10 石川県立大聖寺実業高等学校	-	1	1
11 石川県立鶴来高等学校	-	4	4
12 小松市立高等学校	1	-	1
13 啓新高等学校	-	-	-
14 石川県立小松高等学校	1	-	1
15 金沢高等学校	5	4	9
16 北陸学院高等学校	3	3	6
17 石川県立穴水高等学校	-	3	3
18 鵬学園高等学校	2	2	4
19 石川県立金沢辰巳丘高等学校	4	3	7
21 富山県立志貴野高等学校	1	-	1
22 石川県立津幡高等学校	-	2	2
23 石川県立羽咋高等学校	-	-	-
24 石川県立翠星高等学校	1	1	2
25 石川県立金沢向陽高等学校	-	3	3
26 遊学館高等学校	10	2	12
27 高山西高等学校	-	2	2
28 石川県立金沢西高等学校	-	4	4
29 石川県立寺井高等学校	2	2	4
30 富山県立桜井高等学校	-	1	1
31 星稜高等学校	5	3	8
32 石川県立金沢二水高等学校	4	5	9
33 富山県立雄山高等学校	-	1	1
34 石川県立門前高等学校	-	-	-
36 石川県立金沢錦丘高等学校	4	5	9
37 石川県立飯田高等学校	-	-	-
38 石川県立金沢北陵高等学校	1	-	1
40 石川県立加賀高等学校	-	-	-
41 石川県立羽咋工業高等学校	-	-	-
42 石川県立金沢中央高等学校	2	-	2
43 石川県立七尾高等学校	2	2	4
44 福井南高等学校	-	-	-
46 石川県立金沢桜丘高等学校	-	2	2
47 石川県立金沢伏見高等学校	4	3	7
48 福井県立丸岡高等学校	1	3	4
49 石川県立松任高等学校	-	2	2
50 福井県立丹生高等学校	-	-	-
51 星槎国際高等学校 福井学習センター	-	-	-

クロス集計

問5（かなざわ食マネジメント専門職大学への進学希望）×問3（高校卒業後の進路）
×問4（専門職大学への関心）

	問5					合計
	進学を希望する	とりあえず受験してみたい	進学を希望しない	わからない	不明	
全回答者	63 (1.5)	78 (1.8)	2971 (68.9)	1188 (27.6)	10 (0.2)	4310 (100.0)
（問3）うち大学進学・ 専門職大学進学	48 (1.5)	45 (1.4)	2217 (71.2)	802 (25.8)	2 (0.1)	3114 (100.0)
（問4）うち専門職大学に 「たいへん関心がある」	33 (9.4)	16 (4.5)	209 (59.4)	94 (26.7)	0 (0.0)	352 (100.0)
（問4）うち専門職大学に 「少し関心がある」	10 (0.7)	25 (1.7)	948 (64.9)	478 (32.7)	0 (0.0)	1461 (100.0)
小 計	43 (2.4)	41 (2.3)	1157 (63.8)	572 (31.5)	0 (0.0)	1813 (100.0)
（問3）うち短期大学進学・ 専門職短期大学進学	4 (1.0)	11 (2.8)	248 (62.6)	130 (32.8)	3 (0.8)	396 (100.0)
（問4）うち専門職大学に 「たいへん関心がある」	3 (4.5)	3 (4.5)	42 (62.7)	19 (28.4)	0 (0.0)	67 (100.0)
（問4）うち専門職大学に 「少し関心がある」	1 (0.5)	3 (1.4)	132 (62.9)	73 (34.8)	1 (0.5)	210 (100.0)
小 計	4 (1.4)	6 (2.2)	174 (62.8)	92 (33.2)	1 (0.4)	277 (100.0)
（問3）うち専門学校進学	11 (1.4)	22 (2.8)	506 (63.3)	256 (32.0)	5 (0.6)	800 (100.0)
（問4）うち専門職大学に 「たいへん関心がある」	7 (4.5)	7 (4.5)	96 (61.5)	46 (29.5)	0 (0.0)	156 (100.0)
（問4）うち専門職大学に 「少し関心がある」	3 (0.7)	14 (3.4)	248 (60.8)	141 (34.6)	2 (0.5)	408 (100.0)
小 計	10 (1.8)	21 (3.7)	344 (61.0)	187 (33.2)	2 (0.4)	564 (100.0)

上段は人数、下段の（ ）は割合（%）

かなざわ食マネジメント専門職大学への進学希望（問5）で「進学を希望する」と回答した63人のうち、高校卒業後の進路（問3）で「大学進学・専門職大学進学」と回答したのは48人、その48人のうち、専門職大学への関心（問4）で「たいへん関心がある」と回答したのは33人、「少し関心がある」と回答したのは10人、となる。

<アンケート調査票>

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査票

かなざわ食マネジメント専門職大学（仮称）は、優れた専門技能等を身に付けプロフェッショナルとして活躍する人材を養成する「専門職大学」制度に基づき設置する新たな高等教育機関です。

かなざわ食マネジメント専門職大学では、フードサービス企業のマネジメントのプロとして、卒業後は即戦力としてフードサービス産業をリードできる人材を養成します。

このアンケート調査は、高校生の皆様の高校卒業後の進路等に関する意向や専門職大学への関心等についてお聞きし、今後の計画推進の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ使い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。

【かなざわ食マネジメント専門職大学の概要】※いずれも予定であり変更される可能性があります。

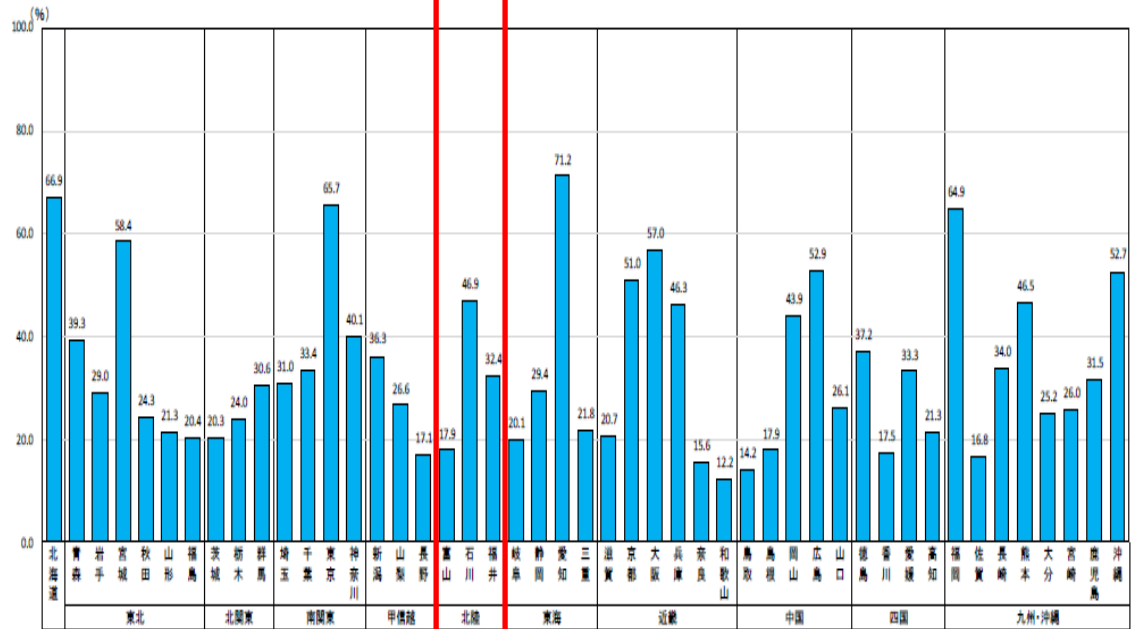
学部・学科	フードサービスマネジメント学部 フードサービスマネジメント学科（仮称）
開設時期	2021年4月
入学定員	40人
学費	初年度 1,200,000 円 次年度以降 1,000,000 円 *実習費、教材費は別途必要
資格・免許	中小企業診断士、日商簿記、IT パスポート、食品衛生責任者、経営学検定、マーケティング検定 など
開設場所	石川県白山市横江町土地区画整理事業施行地区内8 街区1 番 (JR 野々市駅から徒歩15分 野々市駅へは金沢駅から普通電車で7分)
人材養成像	フードサービス業界が抱える現状の課題と向き合い、将来の業界の発展に貢献できるリーダーを養成します 4年間のカリキュラムを通じて、店舗マネージャーとしての実務を修得し、将来的にはスーパーバイザーや経営に携わる企画マネージャーの素養を兼ね備えた人材を養成します。
主な就職先	フードサービス業
設置者	学校法人 国際ビジネス学院

【各学校の概要】

かなざわ食マネジメント専門職大学	名古屋文理大学	立命館大学
<ul style="list-style-type: none"> ・学位：フードサービスマネジメント学士（専門職） ・在学年数：4年 ・人材像：フードサービス業界が抱える現状の課題と向き合い、将来の業界の発展に貢献できるリーダーを養成します。 4年間のカリキュラムを通じて、店舗マネージャーとしての実務を修得し、将来的にはスーパーバイザーや経営に携わる企画マネージャーの素養を兼ね備えた人材を養成 ・就職先：フードサービス企業、関連企業 ・学費：1,200,000 円 ※ 初年度 1,000,000 円 ※ 2年目以降 	<ul style="list-style-type: none"> ・称号：学士（フードビジネス） ・在学年数：4年 ・人材像：食品の製造—流通—消費の過程に関わる知識や、多様な食生活や食文化に関わる幅広い知識を学修し、高度な専門知識を備えた人材となるため、体系的にフードビジネスの専門知識を身につけ、食品製造業、食品流通業、外食産業などのフードビジネスの各分野で活躍できる応用力、実践力のある人材を育成 ・就職先：食品メーカー、食品流通、フードサービス ・学費：1,330,000 円 ※ 初年度 1,130,000 円 ※ 2年目以降 	<ul style="list-style-type: none"> ・称号：学士（食マネジメント） ・在学年数：4年 ・人材像：経済学・経営学を基盤としながら、食に関する深い知見を培い、高度なマネジメント能力と実践的な行動力を備え、食の人类的な課題の解決に寄与できる人材を育成 ・就職先：商品企画・開発担当者、マーケティング、バイヤー、コンサルタント、行政職、起業家、スーパーバイザー、ジャーナリスト、組合・非営利団体スタッフ、プロデューサー・ディレクター、編集者、経営者 ・学費：1,336,000 円 ※ 初年度 1,196,000 円 ※ 2年目以降

(裏面に続く)

・大学進学者地元残留率



石川県 46.9% 福井県 32.4% 富山県 17.9%
 全国平均 44.2%

出典：リクルート進学総研 「地元残留率（都道府県別 2018年）」

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート

高校生アンケート集計結果

令和2年2月

<アンケート調査概要>

1. アンケート調査の目的

学校法人国際ビジネス学院では、「かなざわ食マネジメント専門職大学 フードサービスマネジメント学部 フードサービスマネジメント学科」(仮称)の開設を目指し、高校生の新専門職大学への進学意向を把握するために、高校生を対象にアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

「かなざわ食マネジメント専門職大学設置に関するアンケート調査」

3. 調査対象

石川県内既設大学の入学者の出身地の傾向を踏まえ、石川県内の高等学校を中心に、富山県、福井県に所在する高等学校に依頼し、各高校の2年生を対象に、アンケート調査を実施した。

4. 調査実施

令和2年2月に調査を実施した。

5. 調査方法

郵送により各高校へアンケート調査票を配布し、各高校にて調査実施後に回収した。アンケート調査票のデータ入力及び集計を株式会社ライセンスアカデミーが行った。

6. 回収率

回収票数 2828 票

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査 回収校一覧

回収日	所在	No.	高校	回収数
2月14日	石川県	1	県立 羽咋工業高等学校	114
2月14日	石川県	2	県立 七尾高等学校	198
2月14日	石川県	3	県立 金沢伏見高等学校	98
2月14日	石川県	4	県立 金沢北稜高等学校	104
2月14日	石川県	5	県立 金沢錦丘高等学校	144
2月14日	石川県	6	県立 金沢商業高等学校	238
2月14日	石川県	7	県立 小松明峰高等学校	197
2月14日	石川県	8	県立 金沢桜丘高等学校	318
2月20日	富山県	9	県立 富山商業高等学校	201
2月21日	富山県	10	県立 高岡工芸高等学校	149
2月14日	福井県	11	県立 奥越明成高等学校	129
2月14日	福井県	12	県立 仁愛女子高等学校	375
2月14日	福井県	13	県立 科学技術高等学校	156
2月14日	福井県	14	県立 足羽高等学校	53
2月14日	福井県	15	県立 福井農林高等学校	120
2月24日	福井県	16	県立 坂井高等学校	160
2月25日	福井県	17	県立 福井商業高等学校	74
17校			合計	2828

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査
集 計 表

[有効回答票：2828 票]

問1 あなたの性別についておたずねします。

	人数	%
1 男性	1294	45.7
2 女性	1534	54.3
N (%ベース)	2828	100.0

問2 あなたがお住まいの県についてお尋ねします。

上段:人 下段:%	合計	1 石川県	2 富山県	3 福井県	7 その他
全体	2828	1415	347	1066	1
	100.0	50.0	12.3	37.7	0

問3 あなたの進路についておたずねします。あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。

上段:人 下段:%	合計	1 大学進学・ 専門職大学 進学	2 短期大学・ 専門職短期 大学進学	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明
全体	2828	1331	284	449	745	27	0
	100.0	46.7	10.0	15.9	26.3	1.1	0

(問4以降は、問3で「1 大学進学・専門職大学進学」1320人、「2 短期大学進学・専門職短期大学進学」284人、「3 専門学校進学」449人と回答した2064人による設問)

問4 専門職大学は、従来の大学や短期大学とは異なる教育機関として新たにつくられた高等教育機関です。実際の会社やお店などで行う実習教育が従来の大学や短期大学よりも多いのが特徴です。また、教員の中には社会の第一線で活躍している実務家が含まれ、最先端の知識や技能を学ぶことができるのも特徴の一つです。

あなたは、このような実践的な教育を行う専門職大学に関心がありますか。

上段:人 下段:%	合計	1 たいへん 関心がある	2 少し関心 がある	3 あまり関心 はない	4 まったく 関心はない	不明
全体	2064	153	473	926	512	0
	100.0	7.4	22.9	44.9	24.8	0

問5 あなたはかなざわ食マネジメント専門職大学 フードサービスマネジメント学部
フードサービスマネジメント学科への進学を希望しますか。

上段:人 下段:%	合計	1 進学を 希望する	2 とりあえず 受験して みたい	3 進学を 希望しない	4 わからない	不明
全体	2064	27	60	1078	899	0
	100.0	1.3	2.9	52.2	43.6	0

クロス集計

問5（かなざわ食マネジメント専門職大学への進学希望）×問3（高校卒業後の進路）
×問4（専門職大学への関心）

	問5					合計
	進学を希 望する	と り あ え ず 受 験 し て み た い	進学を希 望しない	わ か ら な い	不明	
全回答者	27 (1.3)	60 (2.9)	1078 (52.2)	899 (43.6)	0	2064 (100.0)
(問3) うち大学進学・ 専門職大学進学	22 (1.7)	41 (3.1)	689 (51.8)	579 (43.4)	0	1331 (100.0)
(問4) うち専門職大学に 「たいへん関心がある」	18 (16.4)	17 (15.5)	51 (46.4)	24 (21.7)	0	110 (100.0)
(問4) うち専門職大学に 「少し関心がある」	4 (1.1)	21 (6.0)	216 (62.1)	107 (30.8)	0	348 (100.0)
小 計	22 (4.8)	38 (8.3)	267 (58.3)	131 (28.6)	0	458 (100.0)
(問3) うち短期大学進学・ 専門職短期大学進学	2 (0.7)	7 (2.5)	168 (59.2)	107 (37.6)	0	284 (100.0)
(問4) うち専門職大学に 「たいへん関心がある」	1 (6.7)	3 (20.0)	6 (40.0)	5 (33.3)	0	15 (100.0)
(問4) うち専門職大学に 「少し関心がある」	1 (2.5)	3 (7.5)	24 (60.0)	12 (30.0)	0	40 (100.0)
小 計	2 (3.6)	6 (10.9)	30 (54.6)	17 (30.9)	0	55 (100.0)
(問3) うち専門学校進学	3 (0.7)	12 (2.7)	221 (49.2)	213 (47.4)	0	449 (100.0)
(問4) うち専門職大学に 「たいへん関心がある」	2 (7.1)	4 (14.3)	12 (42.9)	10 (35.7)	0	28 (100.0)
(問4) うち専門職大学に 「少し関心がある」	1 (1.2)	7 (8.2)	47 (55.3)	30 (35.3)	0	85 (100.0)
小 計	3 (2.7)	11 (9.7)	59 (52.2)	40 (35.4)	0	113 (100.0)

資料 1 1

「かなざわ食マネジメント専門職大学設置に関するアンケート調査」

アンケート調査概要

1. アンケート調査の目的
社会人の専門職大学への進学意向を把握するために、インターネットによるアンケート調査を実施した。
2. 調査対象
社会人経験 1 年以上を「社会人」と定義し、卒業生及び臨地実習先の従業員を対象として実施した。
3. 調査実施
令和 2 年 2 月 14 日~2 月 28 日に調査を実施した。
4. 調査方法
本学のホームページにあるアンケートフォームで実施した。
<https://www.kanazawa-pu.ac.jp/>
5. 回収率
回収票数 31 件

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査 集計表 (抜粋)

【有効回票数：31 票】

問 1 本学の卒業生の有無

計	あり	なし
31	19	12

問 2 社会人経験の有無

計	あり	なし
31	31	0

問 3 性別

計	男性	女性
31	13	18

問 4 年齢

計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

31	1	21	7	1	1	0	0
----	---	----	---	---	---	---	---

問5-1 お住まいの都道府県

計	石川県	富山県	福井県	新潟県	長野県	岐阜県	その他
31	21	2	2	0	0	0	6

*問5-2 その他（愛知県2名、神奈川県2名、東京都2名）

問6-1 現在の職業

正社員（一般社員）	16
正社員（役職あり）	5
会社経営者・役員	1
契約社員・派遣社員	3
自営業	0
パート・アルバイト	6
専業主婦	0
学生	0
無職	0
その他	0
計	31

問7 リカレント教育への関心の有無

たいへん関心がある	7
少し関心がある	15
あまり関心はない	6
まったく関心はない	3
計	31

問8 専門職大学への関心の有無

たいへん関心がある	11
少し関心がある	13
あまり関心はない	7
まったく関心はない	0
計	31

問9 専門職大学への進学の有無

入学を希望する	3
とりあえず受験してみたい	9
入学を希望しない	19
計	31

問10 入学の時期

令和3年度	8
令和4年度	3
令和5年度	1
計	12

「社会人経験あり」と「進学の有無」と「入学の時期」のクロス集計

クロス集計の項目	計
「社会人経験あり」+「入学を希望する」+「令和3年度入学」	3
「社会人経験あり」+「入学を希望する」+「令和4年度入学」	0
「社会人経験あり」+「入学を希望する」+「令和5年度以降入学」	0

クロス集計の項目	計
「社会人経験あり」+「とりあえず受験してみたい」+「令和3年度入学」	5
「社会人経験あり」+「とりあえず受験してみたい」+「令和4年度入学」	3
「社会人経験あり」+「とりあえず受験してみたい」+「令和5年度以降入学」	1

資料「社会人アンケート調査」

社会人アンケート

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査

設問は最大で12問ございます。
所要時間は約2分となります。

※は必須項目となります。

あなたは学校法人国際ビジネス学院グループの卒業生ですか？

※ 問1.卒業生の有無 卒業生である 卒業生でない

※ 問2.社会人経験の有無 有り 無し

ここでいう社会人経験とは1年以上の社会人経験を有する18歳以上の人のことを指します。なお、正社員・契約社員・派遣社員の雇用形態だけではなく、パート・アルバイトの雇用形態も含まれます。

※ 問3.性別 男性 女性

※ 問4.年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

※ 問5-1.現在お住まいの都道府県 石川県 富山県 福井県 新潟県 長野県 岐阜県 その他

その他にチェックをいただいた方は問5-2にお進みください。

問5-2.問5-1にてその他とお答えいただいた方へ現在お住まいの都道府県をお答えください。

※ 問6-1.現在のご職業 正社員（一般社員） 正社員（役職あり） 会社経営者・役員 契約社員・派遣社員 自営業 パート・アルバイト 専業主婦 学生 無職 その他

その他にチェックをいただいた方は問6-2にお進みください。

問6-2.問6-1にてその他とお

答えいただいた方へ現在のご職業をお答えください。

※ 問7.リカレント教育への関心の有無

- たいへん関心がある
 少し関心がある
 あまり関心はない
 まったく関心はない

「リカレント教育」とは、「学校教育」を人々の生涯にわたって、分散させようとする理念であり、その本来の意味は、「職業上必要な知識・技術」を修得するために「フルタイムの就学」と「フルタイムの就職」を繰り返すこと。

専門職大学は、従来の大学や短期大学とは異なる教育機関として新たにつくられた高等教育機関です。実際の会社やお店などで行う実習教育が従来の大学や短期大学よりも多いのが特徴です。また、教員の中には社会の第一線で活躍している実務家が含まれ、最先端の知識や技術を学ぶことができるのも特徴の一つです。

※ 問8.専門職大学への関心の有無

- たいへん関心がある
 少し関心がある
 あまり関心はない
 まったく関心はない

※ 問9.専門職大学への進学の有無

- 入学を希望する
 とりあえず受験してみたい
 入学を希望しない

ここでいう専門職大学とはかなざわ食マネジメント専門職大学 フードサービスマネジメント学部 フードサービスマネジメント学科のことを指します。

問9にて「入学を希望する」もしくは「とりあえず受験してみたい」とお答えいただいた方は問10の設問にお答えください。また「入学を希望しない」とお答えいただいた方はアンケートは以上となります。

問10.入学の時期

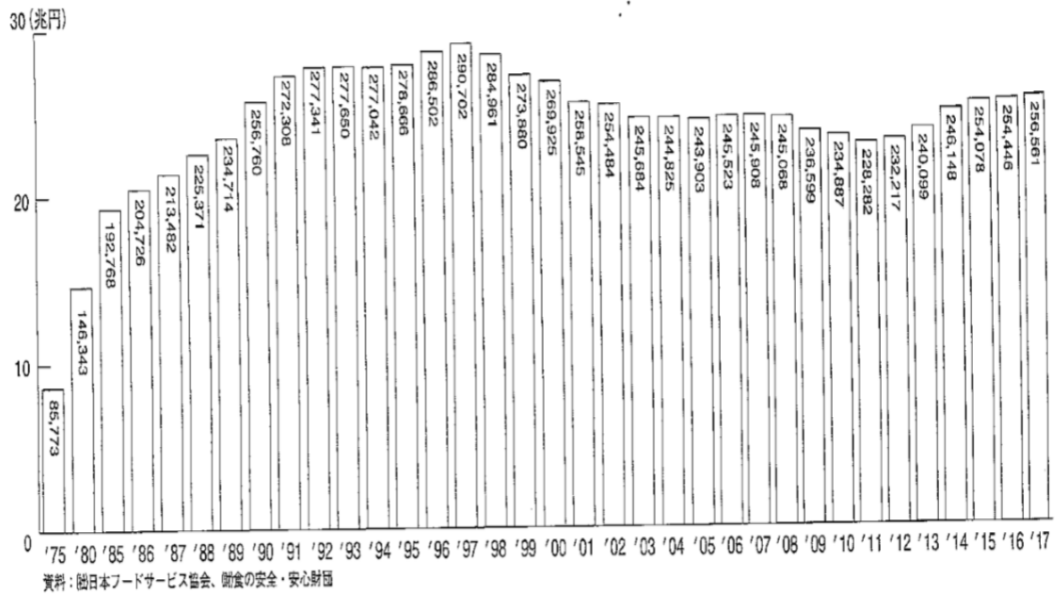
- 令和3年度 令和4年度 令和5年度以降

上記の入力内容を確認して「確認画面へ」ボタンを押してください

確認画面へ

サイトに戻る

1. 外食産業市場規模 (推計値) (単位: 億円)



出典: (一社)日本フードサービス協会「外食産業市場規模 (推定値)」

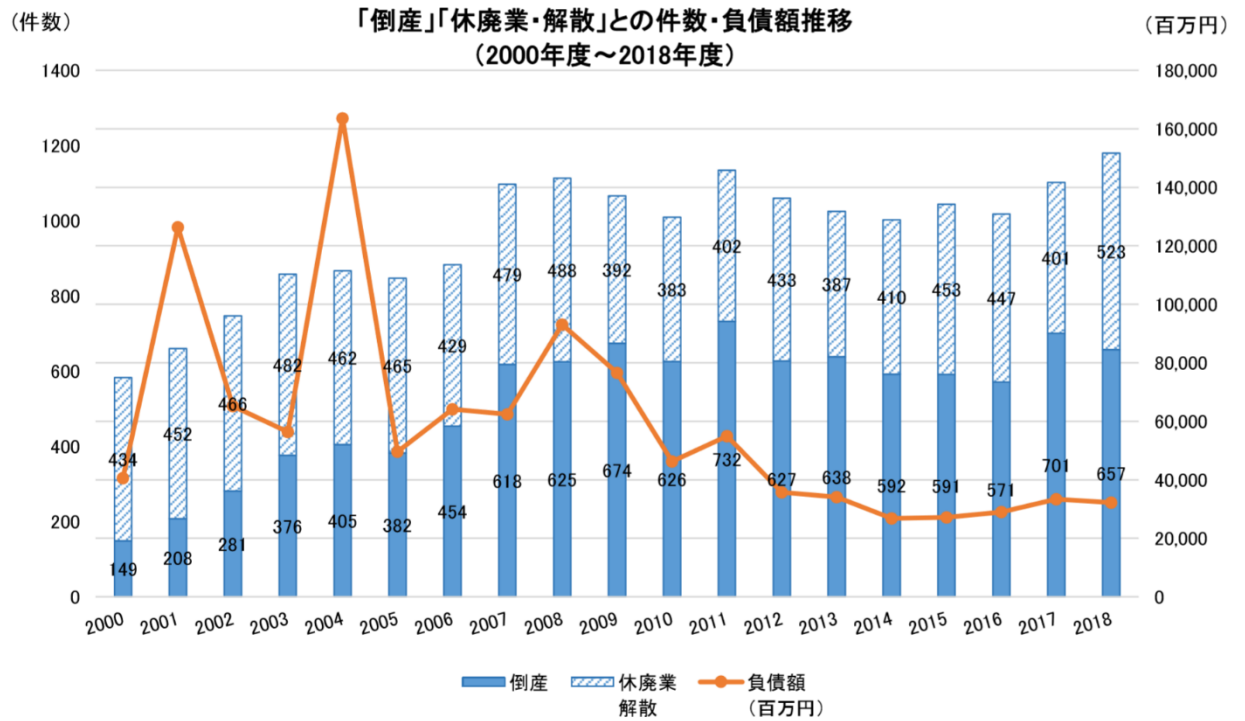
JF外食産業動向調査 94-18年 年間データ(1月-12月合計)

年間合計

全 店 <新規店を含む>	売上金額前年比																								
	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
全 体	105.7%	102.9%	104.6%	103.4%	102.4%	102.3%	102.7%	103.2%	101.7%	99.7%	101.5%	102.2%	102.8%	104.1%	101.3%	98.5%	100.5%	98.8%	101.6%	100.7%	99.8%	100.1%	102.8%	103.1%	102.3%
ファーストフード	103.9%	101.8%	100.9%	100.2%	99.9%	100.6%	101.2%	102.8%	101.1%	99.1%	100.6%	102.6%	104.0%	107.5%	103.7%	102.5%	102.1%	99.9%	101.1%	99.5%	97.9%	97.4%	106.0%	104.6%	103.3%
ファミリーレストラン	108.3%	104.5%	106.9%	106.2%	104.2%	103.3%	103.6%	103.0%	101.8%	99.7%	101.0%	100.4%	100.0%	100.0%	98.4%	95.3%	99.3%	98.4%	102.7%	103.3%	103.2%	103.8%	100.4%	101.5%	101.3%
バブレストラン/居酒屋	106.0%	101.8%	109.2%	108.8%	104.0%	104.9%	102.5%	104.8%	100.6%	98.0%	105.2%	106.5%	109.2%	103.9%	100.0%	94.2%	97.2%	95.5%	99.5%	96.5%	95.0%	94.3%	92.8%	99.0%	98.5%
ディナーレストラン	103.4%	100.3%	106.8%	102.0%	98.7%	98.2%	100.7%	100.3%	98.4%	99.3%	102.6%	104.1%	102.9%	105.5%	98.9%	92.1%	98.7%	98.6%	105.3%	102.1%	104.0%	106.0%	104.3%	104.5%	103.2%
喫茶	109.8%	111.2%	109.6%	112.5%	112.0%	108.5%	109.5%	109.0%	110.5%	107.5%	106.8%	103.8%	102.4%	104.2%	102.8%	94.9%	99.8%	97.8%	102.2%	100.1%	100.1%	102.5%	101.2%	102.6%	100.8%
その他	105.6%	105.3%	103.5%	99.3%	98.9%	95.8%	99.3%	99.9%	100.5%	102.7%	106.6%	105.2%	103.2%	104.0%	103.1%	93.3%	95.5%	95.9%	103.7%	105.2%	106.3%	106.1%	103.4%	104.0%	103.3%

全 店 <新規店を含む>	利用客数前年比																								
	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
全 体	106.7%	103.6%	104.8%	103.9%	104.8%	104.3%	104.3%	107.2%	105.3%	100.0%	100.0%	103.4%	101.7%	103.8%	100.6%	100.2%	102.6%	99.3%	102.3%	99.9%	97.1%	96.9%	101.5%	102.2%	100.8%
ファーストフード	104.4%	100.4%	101.9%	101.5%	103.0%	102.9%	102.9%	110.7%	105.4%	98.2%	98.3%	105.8%	102.8%	108.2%	102.3%	102.7%	103.8%	100.1%	103.0%	99.4%	95.8%	94.4%	102.4%	103.1%	101.7%
ファミリーレストラン	109.2%	104.4%	105.4%	105.3%	105.3%	104.8%	104.4%	103.7%	104.5%	101.3%	100.4%	98.8%	98.9%	99.4%	98.2%	97.6%	101.3%	98.8%	101.2%	101.6%	100.3%	100.9%	99.9%	99.9%	99.4%
バブレストラン/居酒屋	105.0%	103.1%	109.2%	109.3%	104.7%	105.0%	103.1%	106.9%	102.0%	97.8%	106.0%	105.4%	107.2%	101.2%	97.4%	95.1%	98.7%	95.3%	99.5%	97.7%	96.3%	95.0%	94.4%	99.7%	98.8%
ディナーレストラン	105.1%	104.7%	106.4%	102.5%	101.9%	100.2%	103.5%	101.5%	99.9%	98.7%	100.2%	101.2%	102.6%	106.0%	99.5%	93.5%	98.0%	97.4%	105.1%	101.4%	101.5%	102.7%	104.4%	104.5%	102.5%
喫茶	111.4%	113.5%	114.5%	111.7%	111.6%	109.5%	107.9%	107.9%	109.5%	107.0%	106.8%	103.5%	101.7%	102.8%	97.1%	93.7%	100.8%	97.5%	101.3%	98.7%	97.1%	99.9%	99.7%	100.7%	99.0%
その他	104.9%	107.8%	106.1%	99.6%	99.2%	95.3%	102.0%	96.0%	95.2%	96.0%	100.8%	104.5%	106.0%	105.4%	106.1%	93.2%	96.7%	94.5%	102.2%	106.3%	103.2%	102.3%	110.4%	108.9%	99.0%

出典：(一社) 日本フードサービス協会「月次外食産業市場動向調査」



出典：株式会社帝国データバンク

「特別企画：「飲食店」の倒産、休廃業・解散動向調査（2018年度）」

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート
事業所アンケート集計結果

令和元年 9 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

<アンケート調査概要>	1
<アンケート集計結果>	3
<アンケート調査票>	21

<アンケート調査概要>

1. アンケート調査の目的

学校法人国際ビジネス学院では、「かなざわ食マネジメント専門職大学 フードサービスマネジメント学部 フードサービスマネジメント学科」（仮称）の開設を目指し、新専門職大学卒業者の採用意向を把握するために、企業を対象にアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

「かなざわ食マネジメント専門職大学設置に関するアンケート調査」

3. 調査対象

「食百年の会」及び「一般社団法人日本フードサービス協会」の各会員企業にアンケート調査を実施した。（回収表はP.5～P.6を参照）

4. 調査実施

令和元年7月～9月に調査を実施した。

5. 調査方法

郵送により各企業へアンケート調査票を配布し、各企業にて調査実施後、郵送にて回収した。アンケート調査票の配布、回収、データ入力及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

6. 回収率

回収票数 60 票 回収率 13.8%（回収企業 60 件 ÷ 発送企業 434 件 × 100）

（回収表はP.5～P.6を参照）

内訳： 食百年の会 17 件回収 58 件発送 回収率 29.3%

一般社団法人日本フードサービス協会 43 件回収 376 件発送 回収率 11.4%

<アンケート集計結果>

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査 回収表

回収日	ID	企業名	都道府県
食百年の会			
7.25	1	株式会社アールディーシー	埼玉県
7.29	8	有限会社磯部クオリティーサービス	埼玉県
7.25	14	北一食品株式会社	北海道
7.29	18	株式会社こうしんづか	東京都
8.05	19	株式会社甲羅	愛知県
7.29	21	株式会社サンワ・レストラン・クリエイツ	宮城県
7.29	23	株式会社しせん	群馬県
7.29	27	株式会社ダイセン	愛知県
7.26	34	虎コーポレーション株式会社	宮崎県
7.29	38	早野商事株式会社	千葉県
7.26	40	株式会社風来坊	岡山県
7.26	44	株式会社マルズ・ジョイフード	福島県
8.05	49	株式会社 MIHORI	山口県
7.26	55	株式会社山のせ	徳島県
8.14	56	株式会社雪村	茨城県
7.26	57	株式会社よね蔵	新潟県
8.30	58	株式会社 Romantic Road	埼玉県
日本フード協会			
8.14	1004	アサヒフードクリエイト株式会社	東京都
8.13	1016	株式会社アントワークス	東京都
8.13	1019	イートアンド株式会社	東京都
8.30	1020	株式会社イオンイーハート	千葉県
9.03	1047	SRS ホールディングス株式会社	大阪府
8.27	1057	株式会社王将フードサービス	京都府
8.16	1067	株式会社家族亭	大阪府
8.08	1069	ガッツフードサービス株式会社	東京都
8.22	1075	株式会社川本	石川県
8.08	1080	株式会社木曾路	愛知県
8.13	1113	株式会社玄海	東京都
9.09	1114	元気寿司株式会社	栃木県
8.14	1115	康正産業株式会社	鹿児島県
8.15	1119	珈琲館株式会社	東京都
8.07	1140	株式会社ジーエスアール	埼玉県
8.13	1152	株式会社シャノアール	東京都
8.08	1178	株式会社ゼットン	東京都
8.22	1181	株式会社ゼンショーホールディングス	東京都
8.13	1190	株式会社高倉町珈琲	東京都
8.21	1192	タニザワフーズ株式会社	愛知県
8.13	1193	株式会社 WDI	東京都
8.09	1198	千房株式会社	大阪府
8.09	1209	株式会社 DD ホールディングス	東京都

回収日	ID	企業名	都道府県
8.16	1215	株式会社東急グルメフロント	東京都
8.13	1218	株式会社東天紅	東京都
8.09	1235	株式会社なか卯	東京都
8.19	1250	株式会社ニュートーキョー	東京都
8.15	1253	株式会社人形町今半フーズプラント	東京都
8.08	1257	株式会社ハイデイ日高	埼玉県
8.20	1260	株式会社ハチバン	石川県
8.08	1264	株式会社浜木綿	愛知県
8.08	1271	株式会社ビー・ワイ・オー	東京都
8.08	1288	株式会社フォーシーズ	東京都
8.09	1294	富士産業株式会社	東京都
8.08	1301	株式会社フライングガーデン	栃木県
8.09	1305	株式会社プレナス	福岡県
8.19	1317	株式会社マコト	東京都
8.09	1319	株式会社松富士食品	東京都
8.14	1322	株式会社マリノ	愛知県
8.15	1349	大和フーズ株式会社	埼玉県
8.07	1353	株式会社ヨシックス	愛知県
8.08	1367	ロイヤルホールディングス株式会社	福岡県
8.22	1369	株式会社ロツテリア	東京都

回収数：「食百年の会」17件 「(一社)日本フードサービス協会」43件：合計60件

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査

集 計 表

[有効回答票：60票]

Q 1 貴社の本社（本部）所在地について、都道府県名をお教えてください。

東京都	25件	千葉県	2件	福岡県	1件	鹿児島県	1件	宮城県	1件
愛知県	7件	石川県	2件	福島県	1件	山口県	1件	宮崎県	1件
埼玉県	6件	栃木県	2件	徳島県	1件	群馬県	1件	岡山県	1件
大阪府	3件	北海道	1件	新潟県	1件	京都府	1件	茨城県	1件

Q 2 貴社の主な業態についてご回答ください。（複数回答）

	件数	%
1 飲食店・レストラン	56	93.3
2 宿泊施設・ホテル	2	3.3
3 喫茶店・カフェ	12	20.0
4 居酒屋	12	20.0
5 その他	10	16.7
N (% [^] -s)	60	100.0

複数回答のため合計は100%にならない

(「5 その他」の回答)

冷凍食品メーカー	給食、ケータリング	宅配
ケータリング事業	精肉店、ケータリングサービス	惣菜チェーン
ブライダル、アウトドア	惣菜店	コントラクトフードサービス機内食
アミューズメント、ブライダル		

Q 3 貴社の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。

	件数	%
1 20名未満	2	3.3
2 21名～50名未満	3	5.0
3 51名～100名未満	8	13.3
4 101名～300名未満	24	40.0
5 301名以上	23	38.3
N (% [^] -s)	60	100.0

Q 4 貴社における近年の人材充足状況はいかがでしょう。

1 一般事務系正社員

	件数	%
1 不足	0	0.0
2 やや不足	13	21.7
3 やや充足	18	30.0
4 充足	28	46.7
不明	1	1.7
N (% [^] -ス)	60	100.0

2 調理加工の技術（調理師免許等）を持つ社員

	件数	%
1 不足	25	41.7
2 やや不足	18	30.0
3 やや充足	6	10.0
4 充足	9	15.0
不明	2	3.3
N (% [^] -ス)	60	100.0

3 店長等の現場責任者クラス

	件数	%
1 不足	33	55.0
2 やや不足	20	33.3
3 やや充足	6	10.0
4 充足	1	1.7
N (% [^] -ス)	60	100.0

4 中核となるミドルクラス社員（エリアマネージャー、スーパーバイザー等）

	件数	%
1 不足	23	38.3
2 やや不足	26	43.3
3 やや充足	7	11.7
4 充足	4	6.7
N (% [^] -ス)	60	100.0

5 中核となる企画部門や開発部門のマネジメントクラス

	件数	%
1 不足	12	20.0
2 やや不足	23	38.3
3 やや充足	19	31.7
4 充足	6	10.0
N (% [^] -ス)	60	100.0

6 総務・人事等事務スタッフのマネージャークラス

	件数	%
1 不足	2	3.3
2 やや不足	26	43.3
3 やや充足	21	35.0
4 充足	11	18.3
N (%ベース)	60	100.0

Q5 貴社において、店長エリアマネージャー、スーパーバイザーなど、組織の中核を担う

人材においては、調理技術はどの程度必要とされますか？

	件数	%
1 調理師や栄養士の資格を持っていることが望ましい	5	8.3
2 調理師などの資格は必ずしも必要としないが、厨房での調理技術・経験を持っていることが望ましい	25	41.7
3 高度な調理技術は不要だが、調理現場（厨房）の仕組みやオペレーションを理解していることが望ましい	24	40.0
4 調理に関する知識があれば調理技術・経験は特に必要としない	1	1.7
5 特に必要とはしていない	4	6.7
不明	1	1.7
N (%ベース)	60	100.0

Q6 貴社における人材の確保において、特にご苦労されている点がございましたらご記入下さい。

店長クラスのマネジメント力の不足者が多い。一方これに対する能力の低さを補う会社側の対策も低い。
採用もさることながら、離職の防止、抑制。
求人が集まらない。高齢者が多い。
応募したいがとても少ない。
基礎学力（考える力のある）を持った学生の確保に難しさを感じています。
調理技術者（プロ）が集まらない。
若い人（20代）の採用が厳しい。
フードサービスを選択する人材が減少した。
男子学生の採用。
入社3年～5年の中堅社員の転職対策。
店舗業務のやりがい（仕事内容）への理解・共感が難しいです。
新卒社員への外食業界不人気により、採用が困難（特に大卒）。
フードサービス業のブラックイメージから本業界の職業への就職希望学生が少ない現状。
弊社の店舗が忙しいイメージの為、労働環境のイメージが悪い。調理未経験者は調理ができるかが不安で応募が少ない。
外食産業を希望する学生が、そもそも少ない中で、全国的な知名度がなく、アピール点が少ない。
求人数が年々少なくなっている。
専門職のスタッフが少ない。ソムリエ・パティシエ。
幹部候補生の不足。
就活において圧倒的な売り手市場であり、労務、福利厚生面において新卒、中途ともに相手にされない状況である。
2018年5月、珈琲館（株）として分離独立しましたので、新卒含めこれから活動を行う。
離職率が高いこと。
入社者の年齢に偏りがあり、20代、30代の応募者が少ない。
飲食事業、店舗の責任者を目指す人材の確保ができない。
調理食の採用。
調理食人材の確保。
専門料理店として手仕事で50年以上運営してきた中で、現在の市況感にあわせて、どこを省略化していくかが人材の確保において課題。
アルバイト採用が難しい地域での人件費高騰や外国人スタッフの増加にともなう教育など多数。
新卒、アルバイト。
フードサービス業のイメージ（長時間労働・休日の取得）。
外食産業のイメージの払拭。
店舗運営を任せられる人材が不足している。期待できる人材が集まらない。
同業他社との採用活動が激化している。
新卒社員、ストアマネジャーの人材が苦しい。
応募者数の不足。
将来のマネジメント力を持てる人材の確保。
愛知県での応募率の低さ。全国での離職率の高さ。
飲食企業であるということのみでマイナスのイメージを持たれ、敬遠される事態が増えており、それに伴って、人数、質の両方の面で人材の確保が難しくなっている点。
合同企業説明会に参加した際に“フードサービス”というだけで大変だと思われる。また、なかなかフードサービスに興味がある学生と出会えない。

Q7 貴社において企業経営の中核人材（ミドルクラスのエリアマネジャーやスーパーバイザーなどの中堅社員）において次のような知識・能力はどの程度重視されていますか。

1 コミュニケーション能力や交渉能力

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	0	0.0
3 やや重視	14	23.3
4 非常に重視	45	75.0
不明	1	1.7
N (%ベース)	60	100.0

2 表現・プレゼンテーション能力

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	10	16.7
3 やや重視	38	63.3
4 非常に重視	10	16.7
不明	2	3.3
N (%ベース)	60	100.0

3 リーダーシップ能力

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	0	0.0
3 やや重視	18	30.0
4 非常に重視	40	66.7
不明	2	3.3
N (%ベース)	60	100.0

4 発想・企画力

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	8	13.3
3 やや重視	43	71.7
4 非常に重視	8	13.3
不明	1	1.7
N (%ベース)	60	100.0

5 語学力

	件数	%
1 重視しない	12	20.0
2 余り重視しない	37	61.7
3 やや重視	7	11.7
4 非常に重視	3	5.0
不明	1	1.7
N (%ベース)	60	100.0

6 各種データ分析・市場分析力（財務データ含む）

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	7	11.7
3 やや重視	45	75.0
4 非常に重視	7	11.7
不明	1	1.7
N（% [^] -ス）	60	100.0

7 食材や商品に関する知識及び商品開発能力

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	10	16.7
3 やや重視	40	66.7
4 非常に重視	9	15.0
不明	1	1.7
N（% [^] -ス）	60	100.0

8 情報システムやソフトウェアを使いこなす能力

	件数	%
1 重視しない	3	5.0
2 余り重視しない	27	45.0
3 やや重視	27	45.0
4 非常に重視	1	1.7
不明	2	3.3
N（% [^] -ス）	60	100.0

9 企業経営全般に関する理解力

	件数	%
1 重視しない	1	1.7
2 余り重視しない	7	11.7
3 やや重視	33	55.0
4 非常に重視	18	30.0
不明	1	1.7
N（% [^] -ス）	60	100.0

10 調理や店舗など現場の仕組みの近い・経験

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	3	5.0
3 やや重視	27	45.0
4 非常に重視	28	46.7
不明	2	3.3
N（% [^] -ス）	60	100.0

11 その他

	件数	%
1 重視しない	0	0.0
2 余り重視しない	1	1.7
3 やや重視	3	5.0
4 非常に重視	6	10.0
不明	50	83.3
N (% [^] -s)	60	100.0

(「その他」の回答)

人望
笑顔(明朗さ)
yes-manではなく、気づいて考えて、行動の出来る店長の育成力
傾聴・対話力
衛生管理
人の管理
現場での指導力
環境への柔軟性

Q8 貴社において、中核人材の育成は主にどのような方法により育成されていますか。

	件数	%
1 社内に教育機構を有している	12	20.0
2 基本的に業務の中で指導・育成(OJT)している	30	50.0
3 各自の自己啓発、自主性に任せている	1	1.7
4 社会のコンサルティングや団体の研修を活用している	6	10.0
5 経験者の中途採用による	3	5.0
6 その他	3	5.0
7 特に考えていない	0	0.0
不明	5	8.3
N (% [^] -s)	60	100.0

(「6 その他」の回答)

OJTと社内教育。
5年次位までは業務+社会研修プログラム、6年次以降は自主性。
教育機構とまでは言えないが社会研修を定期実施している。

Q9 大学新卒者について伺います。貴社における将来の中核人材、幹部候補採用する場合、どのような点を重視しますか。(複数回答)

	件数	%
1 企業経営の理論を学んでいる	14	23.3
2 一定の英語力	1	1.7
3 数字を読む力	18	30.0
4 文章化・起案できる力	12	20.0
5 フードサービス産業を理解し関心がある	41	68.3
6 アルバイト、インターンシップ等の経験がある	18	30.0
7 部活動の経験がある	14	23.3
8 忍耐力がある	33	55.0
9 協調性がある	45	75.0
10 独立心、向上心が強い	24	40.0
11 その他重視する点	5	8.3
不明	2	3.3
N (%ベース)	60	100.0

複数回答のため合計は100%にならない

(「11 その他重視する点」の回答)

そもそも食べることが大好きである。
企業理念を実践できること。
コミュニケーション能力
真摯なところ
コミュニケーション

Q10 貴社における中核人材の育成において課題となっているのは、どのような点でしょうか。(複数回答)

	件数	%
1 教育に時間とコストを要する	27	45.0
2 経験的ノウハウの部分が大きく体系化しにくい	26	43.3
3 企業経営やフードサービスに関する基礎的知識の不足	17	28.3
4 人材育成しても定着しない	22	36.7
5 すぐに結果がでないので処遇に反映しにくい	13	21.7
6 動機づけが難しい	9	15.0
7 その他	4	6.7
N (%ベース)	60	100.0

複数回答のため合計は100%にならない

(「7 その他」の回答)

意識改革に時間がかかっている。
店長以降のキャリアプランの明示。
今後社内での育成方法を検討中
絶対数の不足

Q11 貴社における昨年度の4年制大学の新卒採用状況についてお答えください。

	件数	%
1 採用計画を十分達成できた	2	3.3
2 採用計画をほぼ達成できた	11	18.3
3 採用計画を下回った	35	58.3
4 採用予定はなかった	12	20.0
N (%ベース)	60	100.0

Q12 日本のフードサービス産業分野において、今後影響が大きいと考えられるのはどのような要因でしょうか。(複数回答)

	件数	%
1 グローバル化に伴う食材調達の構造変化	14	23.3
2 コンピューター技術の進展によるキャッシュレス化	21	35.0
3 インバウンドによる外国人観光客の増大によるニーズ変化と対応	19	31.7
4 国内労働力の増加、消費人口の減少	30	50.0
5 厨房機器の自動化、省力化	16	26.7
6 調理加工技術の進歩・高度化	13	21.7
7 外国人労働力の増加とそのマネジメント対応	49	81.7
8 外資系企業の日本進出	1	1.7
9 革新的顧客サービス、顧客管理システムの出現	10	16.7
N (%ベース)	60	100.0

複数回答のため合計は100%にならない

Q13 貴社(ご回答者)では、かなざわ食マネジメント専門職大学「フードサービスマネジメント学部」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生を採用したいと思われませんか。

	件数	%
1 採用したいと思う	57	95.0
2 採用したいと思わない	3	5.0
N (%ベース)	60	100.0

可能であれば、上記回答を選択した理由を教えてください。

【「1 採用したいと思う」を回答】

期待します。
但し、会社の規模が小さくて大丈夫か？
人材不足。
人材育成において、現場の実務は教えやすいが、正しい知識を教えることはとても時間を要するため。
即戦力、食が好きな人材。
前向きに飲食業に取り組みたいと思っている学生だから。
フードサービスの専門知識を持っているだけで即戦力です。

基礎的知識が身に付いている。
食への興味が強い方が企業への入社を希望頂けるのは非常に喜ばしい事だと思っております。
フードサービスの基礎を学んだ学生は、業界の魅力を把握出来ており、即戦力に成り得る人材であり、又、現場課題を解決に導き、革新を期待出来る。
フードサービス業界に関心を持ち、専門的な知識を身につけた学生であることから、そのスキルを発揮して頂き、弊社での活躍が期待できるため。
当社では“食”や“調理”に興味がある、好きである方から採用していきたいと考えています。
専門的な知識・探求心を持ち、外食産業で生かしてもらうことが素晴らしいと思うから。
将来マーチャンダイジングできる人材に育てて欲しい。その為の教育（基礎）に期待します。
外食を希望する学生が少ない中、食に特化した大学を選び、さらに専門的な知識を得た学生ということであれば採用したいと思うのは必然です。
2020年より新卒採用をさせて頂いていますので、専門知識、実学も学ばれた学生様に興味もございません。
フードサービスに興味をお持ちの方であれば、活躍が期待できるから。
業界を理解した上での採用により、入社後のギャップをあまり感じることはないのではと思ったからです。
フードサービスビジネスの基礎を身につけられるから。
意志、知識、技術を兼ね備えた人材確保ができる。
専門で食を学ぶ学校は限られているため。
フードサービスに特化した学生を採用することによる会社としてのメリットが大きいため（仕事への理解、幹部候補採用）。
フードサービス業界の店舗マネジャーの魅力をわかっている学生に働いていただきたい。
食に関心のある学生であること。
飲食業に対して関心が強く、勉強されてきた学生の方の力を是非当社で生かし、活躍してほしい。
フードに興味がある学生はとても好ましい。
将来を担う、フードサービスマネジメントのスペシャリストを多数必要としているため。
こういう大学が出来るのを待っていました。交流を深めたいです。
食のビジネスに関するマネジメント等の知識をあらかじめ持つ学生は魅力的です。
フードサービスに関心のある学生さんを積極採用して、将来会社を担う人材となってほしい。
当社が求めている人材が在籍していると思うため。
外食産業は他業界に比して意識・仕組・分析力が立ち遅れている。逆に言えば、今後の改善の余地が大きい。高度な専門知識・技術を有する人材と共に、業界を変革したいと考えている為。
食に興味を持っている学生さんを是非採用したい。
実践力を身に付けているから。
将来のフードサービスを担う人材を養成するという目的を掲げている貴学科を卒業された学生に期待ができると考えているため。
飲食業界や店舗マネジメントに少しでも興味がある学生にお会いしたいと思っております。
フードサービス業界に関心を持ち、専門的な知識を身につけた学生であることから、そのスキルを発揮して頂き、弊社での活躍が期待できるため。
店舗勤務ではもちろん、商品開発部や衛生管理室という部門でもそういった知識を活かせるため。

【「2 採用したいと思わない」を回答】

カリキュラム内容の不透明さ。

Q14 Q13で卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何名程度の採用を検討されますか。

	件数	%
1 0名	0	0.0
2 1～3名	18	31.6
3 4～6名	14	24.6
4 7～9名	2	3.5
5 10名以上	13	22.8
6 採用人数は未確定	10	17.5
N (% [^] -ス)	57	100.0

Q15 【別紙】臨地実務実習の概要をお読みいただき、この実習に関心はございますか？

	件数	%
1 関心がある	47	78.3
2 関心がない	12	20.0
不明	1	1.7
N (% [^] -ス)	60	100.0

可能であれば、上記回答を選択した理由を教えてください。

【「1 関心がある」を回答】

弊社の魅力をダイレクトに伝えられるから。
どの程度の飲食に対する理解度があるか確かめられる。
業界の発展のためにも。
教える事に対して関心が深まる。教える内容について社内整備が出来るきっかけと感ずるため。
お互いを知る。知識を生かす方法。人とのコミュニケーション力。
外食産業でのインターンは、中々むずかしいので、最初から興味があれば受け入れ方が違ってくる。
調理、サービス現場に近い経験ができる。
企業理解のステップとして是非協力させて下さい。
今年度よりインターン（外食）受け入れをはじめている。
長い目で見て、お互いwin-winの関係構築をしていきたい。
若い世代が外食に何を望むのか。お客様、従業員の視点に立って知ることはお互いにとって良いことだと思料します。
本社勤務の希望が多い中、まずは店舗での研修で現場を知るところからのスタートで、飲食企業の仕組みをしっかりと理解できると感じます。
学ばれた事が実務ではどのように生かされるのか実習を通して理解ができ将来の方向性を決める為に必ず役立つと思ったからです。
実習を通して会社のことを理解していただき、そこに参加した学生を採用することができれば、ミスマッチの少ない採用につながるため。
実務実習により、直接個々の適材・能力を拝見出来るため。
長期インターンに興味がある。
弊社の業務について、学生に理解を深めてもらうことは、その後の就職に非常に有意義と考えます。
就労にあたりミスマッチがおこらない、高レベルな人材が採用できる。

今後の外食産業を担う人材の育成に出来る限り協力したい。又、実習にいらした学生様より、弊社が学ぶ事も多々あると期待される為。

とても有効的手段だと思います。

一度体験して頂くことで少しでもフードサービスの楽しさ・やりがいを分かってもらえるため。

【「2 関心がない」を回答】

現状では受け入れ、対応ができない為。

当社では、現状実施することが厳しい。

Q16 Q15にて「関心がある」にご回答いただいた企業様にお聞きします。

本学の実習生の受入れにご協力いただけますか。

	件数	%
1 協力できる	15	31.9
2 詳細を確認し、検討したい	29	61.7
3 協力できない	3	6.4
N (%ベース)	47	100.0

可能であれば、上記回答を選択した理由を教えてください。

【「1 協力できる」を回答】

業界の発展のためにも。

ぜひ、受け入れてみたい。インターンシップは今現在も積極的に受け入れをさせて頂いている。体験することで学生にとっても企業にとってもプラスのイメージしか湧かないと感じています。

将来、日本各地で活躍される人たちが、少しでも学びを深くできる様に、様々な取り組みにふれられる場を提供できると思う。

採用に結び付けるチャンスなので。

フードサービス産業を理解している。

受け入れることにより、企業の活性化にも繋がると思ったからです。

業界全体のレベル向上につなげられる。

調理系の学生の実習受け入れもあり、サービス業務においても受け入れが可能のため。

今後はこのような取り組みが重要だと考えています。

今後の外食産業を担う人材の育成に出来る限り協力したい。又、実習にいらした学生様より、弊社が学ぶ事も多々あると期待される為。

【「2 詳細を確認し、検討したい」を回答】

店舗が群馬県で離れているので。

まずは社内の受け入れ体制の整備と社内意思統一。

前向きに検討させて頂きたい。

8月と3月という期間の受入れが企業側にとって負担にならないか、また学生側にとって十分な対応ができるか不安はある。

本社が埼玉のため。

店舗での人員不足もあり、充実した実習が行えない可能性もあると考える為。

他学校でのインターンシップや研修の受入れ経験がある。

実務実習の受け入れ部門及び関係先との連携・協力が必要となるため。

学生の店舗実習はすでに実績があります。本社実習については実績がないため、検討課題とさせていただきます。

店舗が受け入れ可能であれば、採用担当者として是非とも受け入れたい。

【「3 協力できない」を回答】

近隣に当社の店舗がないため。

<アンケート調査票>

かなざわ食マネジメント専門職大学の設置に関するアンケート調査票

かなざわ食マネジメント専門職大学（仮称）は、優れた専門技能等を身に付けプロフェッショナルとして活躍する人材を養成する「専門職大学」制度に基づき設置する新たな高等教育機関です。

かなざわ食マネジメント専門職大学では、フードサービス企業のマネジメントのプロとして、卒業後は即戦力としてフードサービス産業をリードできる人材を養成します。

このアンケート調査は、企業の皆様の人材充足状況や本学卒業生に対する採用意向等についてお聞きし、今後の計画推進の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ使い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。

【かなざわ食マネジメント専門職大学の概要】※いずれも予定であり変更される可能性があります。

学部・学科	フードサービスマネジメント学部 フードサービスマネジメント学科（仮称）
開設時期	2021年4月
入学定員	40人
学費	初年度 1,200,000 円 次年度以降 1,000,000 円 *実習費、教材費は別途必要
資格・免許	中小企業診断士、日商簿記、IT パスポート、食品衛生責任者、経営学検定、マーケティング検定 など
開設場所	石川県白山市横江町土地区画整理事業施行地区内8 街区1 番 (JR 野々市駅から徒歩15分 野々市駅へは金沢駅から普通電車で7分)
人材養成像	フードサービス業界が抱える現状の課題と向き合い、将来の業界の発展に貢献できるリーダーを養成します 4年間のカリキュラムを通じて、店舗マネージャーとしての実務を修得し、将来的にはスーパーバイザーや経営に携わる企画マネージャーの素養を兼ね備えた人材を養成します。
主な就職先	フードサービス業
設置者	学校法人 国際ビジネス学院

【各学校の概要】

かなざわ食マネジメント専門職大学	名古屋文理大学	立命館大学
<ul style="list-style-type: none"> 学位：フードサービスマネジメント学士（専門職） 在学年数：4年 人材像：フードサービス業界が抱える現状の課題と向き合い、将来の業界の発展に貢献できるリーダーを養成します。4年間のカリキュラムを通じて、店舗マネージャーとしての実務を修得し、将来的にはスーパーバイザーや経営に携わる企画マネージャーの素養を兼ね備えた人材を養成 就職先：フードサービス企業、関連企業 学費：1,200,000 円 ※ 初年度 1,000,000 円 ※ 2年目以降 	<ul style="list-style-type: none"> 称号：学士（フードビジネス） 在学年数：4年 人材像：食品の製造—流通—消費の過程に関わる知識や、多様な食生活や食文化に関わる幅広い知識を学修し、高度な専門知識を備えた人材となるため、体系的にフードビジネスの専門知識を身につけ、食品製造業、食品流通業、外食産業などのフードビジネスの各分野で活躍できる応用力、実践力のある人材を育成 就職先：食品メーカー、食品流通、フードサービス 学費：1,330,000 円 ※ 初年度 1,130,000 円 ※ 2年目以降 	<ul style="list-style-type: none"> 称号：学士（食マネジメント） 在学年数：4年 人材像：経済学・経営学を基盤としながら、食に関する深い知見を培い、高度なマネジメント能力と実践的な行動力を備え、食の人类的な課題の解決に寄与できる人材を育成 就職先：商品企画・開発担当者、メーカー、バイヤー、コンサルタント、行政職、起業家、スーパーバイザー、ジャーナリスト、組合・非営利団体スタッフ、プロデューサー・ディレクター、編集者、経営者 学費：1,336,000 円 ※ 初年度 1,196,000 円 ※ 2年目以降

かなざわ食マネジメント専門職大学

「フードサービスマネジメント学部」(仮称、設置構想中)に関するアンケート

国際ビジネス学院では、2021年4月にかなざわ食マネジメント専門職大学「フードサービスマネジメント学部」(仮称)の開学を目指し、設置を計画しています。本アンケートは、フードサービス業界の採用ご担当者の皆様から、新卒採用の現状と貴社にとって必要な人材像、ならびに今後のフードサービス業界の動向をお伺いし、フードサービス業界の経営に特化した専門職業人の養成を目指し、より充実した教育課程にするための参考資料とさせていただきます。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

はじめに、貴社についてお伺いいたします

Q1. 貴社の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ← 1つに○

Q2. 貴社の主な業態について、ご回答ください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|--------------|------------|-----------|
| 1. 飲食店・レストラン | 3. 喫茶店・カフェ | 5. その他() |
| 2. 宿泊施設・ホテル | 4. 居酒屋 | |

Q3. 貴社の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号 1つに○)

- | | | |
|--------------|----------------|-----------|
| 1. 20名未満 | 3. 51名～100名未満 | 5. 301名以上 |
| 2. 21名～50名未満 | 4. 101名～300名未満 | |

Q4. 貴社における近年の人材充足状況はいかがでしょう。(各項目のあてはまる番号 1つに○)

項目	1 不足	2 やや不足	3 やや充足	4 充足
1. 一般事務系正社員	1	2	3	4
2. 調理加工の技術(調理師免許等)を持つ社員	1	2	3	4
3. 店長等の現場責任者クラス	1	2	3	4
4. 中核となるミドルクラス社員 (エリアマネージャー、スーパーバイザー等)	1	2	3	4
5. 中核となる企画部門や開発部門のマネージャークラス	1	2	3	4
6. 総務・人事等事務スタッフのマネージャークラス	1	2	3	4

<次のページへ>

Q5. 貴社において、店長エリアマネジャー、スーパーバイザーなど、組織の中核を担う人材においては、調理技術はどの程度必要とされますか？（あてはまる番号1つに○）

1.	調理師や栄養士の資格を持っていることが望ましい
2.	調理師などの資格は必ずしも必要としないが、厨房での調理技術・経験を持っていることが望ましい
3.	高度な調理技術は不要だが、調理現場（厨房）の仕組みやオペレーションを理解していることが望ましい
4.	調理に関する知識があれば調理技術・経験は特に必要としない
5.	特に必要とはしていない

Q6. 貴社における人材の確保において、特にご苦労されている点がございましたらご記入下さい。

Q7. 貴社において企業経営の中核人材（ミドルクラスのエリアマネジャーやスーパーバイザーなどの中堅社員）において次のような知識・能力はどの程度重視されていますか。（各項目のあてはまる番号1つに○）

項 目	1 重視しない	2 余り重視しない	3 やや重視	4 非常に重視
1. コミュニケーション能力や交渉能力	1	2	3	4
2. 表現・プレゼンテーション能力	1	2	3	4
3. リーダーシップ能力	1	2	3	4
4. 発想・企画力	1	2	3	4
5. 語学力	1	2	3	4
6. 各種データ分析・市場分析力（財務データ含む）	1	2	3	4
7. 食材や商品に関する知識及び商品開発能力	1	2	3	4
8. 情報システムやソフトウェアを使いこなす能力	1	2	3	4
9. 企業経営全般に関する理解力	1	2	3	4
10. 調理や店舗など現場の仕組みの近い・経験	1	2	3	4
11. その他（具体的に： _____）	1	2	3	4

<次のページへ>

Q8. 貴社において、中核人材の育成は主にどのような方法により育成されていますか。
 (あてはまる番号1つに○)

1.	社内に教育機構を有している
2.	基本的に業務の中で指導・育成(OJT)している
3.	各自の自己啓発、自主性に任せている
4.	社外のコンサルティングや団体の研修を活用している
5.	経験者の中途採用による
6.	その他(具体的に:)
7.	特に考えていない

Q9. 大学新卒者について伺います。貴社における将来の中核人材、幹部候補採用する場合、どのような点を重視しますか。(あてはまる番号すべてに○)

1.	企業経営の理論を学んでいる
2.	一定の英語力
3.	数字を読む力
4.	文章化・起案できる力
5.	フードサービス産業を理解し関心がある
6.	アルバイト、インターンシップ等の経験がある
7.	部活動の経験がある
8.	忍耐力がある
9.	協調性がある
10.	独立心、向上心が強い
11.	その他重視する点(具体的に:)

<次のページへ>

Q10. 貴社における中核人材の育成において課題となっているのは、どのような点でしょうか。
 (あてはまる番号すべてに○)

1.	教育に時間とコストを要する
2.	経験的ノウハウの部分が大きく体系化しにくい
3.	企業経営やフードサービスに関する基礎的知識の不足
4.	人材育成しても定着しない
5.	すぐに結果がでないので処遇に反映しにくい
6.	動機づけが難しい
7.	その他(具体的に: _____)

Q11. 貴社における昨年度の4年制大学の新卒採用状況についてお答えください。(あてはまる番号1つに○)

1.	採用計画を十分達成できた
2.	採用計画をほぼ達成できた
3.	採用計画を下回った
4.	採用予定はなかった

Q12. 日本のフードサービス産業分野において、今後影響が大きいと考えられるのはどのような要因でしょうか。
 (あてはまる番号3つに○)

1.	グローバル化に伴う食材調達構造変化
2.	コンピューター技術の進展によるキャッシュレス化
3.	インバウンドによる外国人観光客の増大によるニーズ変化と対応
4.	国内労働力の増加、消費人口の減少
5.	厨房機器の自動化、省力化
6.	調理加工技術の進歩・高度化
7.	外国人労働力の増加とそのマネジメント対応
8.	外資系企業の日本進出
9.	革新的顧客サービス、顧客管理システムの出現

<次のページへ>

Q13. 貴社（ご回答者）では、かなざわ食マネジメント専門職大学「フードサービスマネジメント学部」（すべて仮称、設置構想中）を卒業した学生を採用したいと思われませんか。（あてはまる番号1つに○）

1. 採用したいと思う 2. 採用したいと思わない

可能であれば、上記回答を選択された理由を教えてください。

Q14. Q13で卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何名程度の採用を検討されますか。（あてはまる番号1つに○）

1. 0名 3. 4～6名 5. 10名以上
2. 1～3名 4. 7～9名以上 6. 採用人数は未確定

以降の設問は【別紙】臨地実務実習の概要についてをお読みいただき、お答えください。

Q15. 【別紙】臨地実務実習の概要をお読みいただき、この実習に関心はございますか？

（あてはまる番号1つに○）

1. 関心がある 2. 関心がない

可能であれば、上記回答を選択された理由を教えてください。

Q16. Q15にて「関心がある」にご回答いただいた企業様にお聞きします。

本学の実習生の受け入れにご協力いただけますか。（あてはまる番号1つに○）

1. 協力できる 2. 詳細を確認し、検討したい 3. 協力できない

可能であれば、上記回答を選択された理由を教えてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケートの内容や臨地実務実習の正式なご依頼について、詳細などを電話・メール・直接ご訪問にてヒアリングさせていただく場合がございます。ご協力頂ける場合は、以下の情報について、ご記入をお願い致します。

貴社名			
お電話番号		メール	
部署・役職		ご担当者様 氏名	